資産
281
679

昭和十六年十月二十日

調査所資料簡報第四十七號（經濟第十八號）

北京家鴨飼育法

興亞院華北連絡部

技術部
16.11.8.

配付先

一、部内（政務局庶務渡）	一三部
一、興亞院蒙疆連絡部	三部
一、興亞院華北連絡部青島出張所	二部
〃 天津派遣員事務所	一部
一、興亞院華中連絡部	三部
一、〃 南京派遣員事務所	一部
一、〃 廣東派遣員事務所	一部
一、興亞院厦門連絡部	三部
一、興亞院政務部	三〇部
一、岡村部隊參謀部第四課	三〇部
計	八七部

研-0659
0119
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

本篇ハ華北農業（第二期）所載ノ北京家鴨飼育法（韓隆發氏述）ヲ與亞院
畜産部ニ於テ飜譯セシメタルモノナリ
託鈴木金助ヲシテ飜譯セシメタルモノナリ
家禽飼育法ノ參考資料トシテ配布ス

研-0659

0121

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

目次

一、總論

1. 形狀美
2. 生長迅速
3. 肉肥ヘテ采カナリ
4. 抵病少シ
5. 羽毛
6. 飼育法

二、飼育法

1. 飼料
2. 給餌
3. 給水
4. 溫度
(一) 雛ニ適スル溫度
(二) 寒風防止
(三) 適寒保溫

三、肥育法

(四) 寒冷防止
1. 時期
2. 設備
3. 飼料
4. 溫度
5. 飲水
6. 肉理
7. 育法
1. 選種
2. 産卵期
3. 設備
4. 給餌
5. 給水
6. 溫度
7. 育理
(一) 增餌

研-0659

0122

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

(二)絡水
(三)水裕
(四)果ノ作リ方

緒論

北京家鴨ハ我國ノ特産ニシテ近年來各地ニ販賣セラレテヨリ國際貿易上ニモ特殊ノ地位ヲ占ムルニ至レリ、元來北京ニ原産地トスル爲北京家鴨ト稱シ其美味ハ遠近ニ喧傳サルルモ北京家鴨ノ特質ヲ知レル者誠ニ少ケレハ茲ニ其大要ヲ述ヘン

ノ形狀體美

身体ハ長方形羽毛ハ全身純白ニシテ一羽ノ雜毛ト雖モナク、嘴ハ鮮黃色、脚ハ密柑色ヲ帶ヒ眼色ハ深黑ナレハ白色羽毛ニ包マレタル頭部ニ雄然タリ、歩行緩慢ニテ恣場迫ラス、夕陽西ニ落チテ三々五々呼ロナシ傷例垂ルル小川ニ遊泳スル情景ハ誠ニ人ヲシテ欣賞倦ク能ハサラシムル所ニシテ外國ニ於ケル動物園ニモ北京家鴨ヲ飼養スルモノ多シ、

北京ノ菖裕家庭ニ於テハ玩賞品トシテ飼育スルモノ多ク、即チ北京家鴨ハ只賞用生物ナルノミナラス死賞用水禽タルナリ

生長迅速

北京家鴨ノ世界的有名トナリシ所以ハ其ノ生長ノ迅速ナルコトニシテ若シ普通ノ家鴨ナレハ日二十日ヲ賞五十五日内ニ中國秤三斤半ニ達ス若シ其雌ニ二斤餘ニ達スルニ過キス左ニ表ヲ以テ比較ヲ示サン

研-0659
0123
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

年長童重量

日期／種別	北京豕			普通豕		
	斤	兩	瓩	斤	兩	瓩
第一日			分			分
第二十日	一	四	三	二	六	二
第三十日	二	〇	〇	一	〇	〇
第四十日	二	〇	〇	一	三	〇
第五十日	三	〇	八	一	一	〇
第六十日	三	四	〇	一	三	〇
肥滿十日	四	七	〇	一	〇	〇

王光祈氏ノ養豕論ヲ引用ス

（註）斤ハ一六〇匁　兩ハ一〇匁　瓩ハ一〇〇〇匁ナリ

上表ニ依テ見ルモ北京豕ハ以上述キタル如ク而シテ飼養ニ要スル費用ノ点ハ北京豕ハ普通豕ニ比シ長生長ハ二倍ト雖モ北京豕ハ同様ニシテ其他飼育ノ労力ト管理環境等モ亦異ナルトコロナシ即チ北京豕ハ平均十瓦ノ飼料ニ比リテ一瓦ノ體重ヲ増加スルニ到シ普通豕ハ十瓦ノ飼料ニテ一瓦ノ四分ノ一ノ體重ヲ増ズモ過キス経済的ニテ北京豕ハ一層有利ナリ

肉肥ヘテ柔ナリ

北京豕ハ各地ノ豕ハニ比シテハ肥ヘ且ツ大小ニ關ナク屠殺後腹部ヨリ半斤以上ノ脂肪ヲ取出シ得ルハ到底他ノ豕ハサル所ナリ豕ハヲ蒸焼トスル時度出セル脂肪ハ平均百二十匁ノ多キニ達シ又北京豕ハヲ以テ煮卵セハ煮エ上リタル後具肉カ表面ニ少量トナルハ是即チ脂肪カ水中ニ溶解スルカ爲ナリ同様ニ烤豕ハヲ焼スルトキ皮ヲ除ケハ殆ヘテ肉ト油ナルヲ見ル時如何ニ脂肪ニ富ムカヲ知ルヘシ

尚北京豕ハハ五十五日ニテ屠用ニ供シ得ル六七斤ノ豕ハト雖モ八十餘日ヲ要スルニ過キス故ニ北京ハ肉或カナルノ豕ハ肉ミナラス骨モ亦軟カニシテ咀嚼ニ大ナル力ヲ要セス肉ハ嚙切ノ時

研-0659

0124

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

モアルカ北京家鴨ニハ首迫鴨ノ如キ美味ナク一種特別ノ芳香スラ有シ
ホニ由ル（炎火ニテ燃焼トス）鴨ノ如キハ感メテ美味ナリ中國來
遊スル歐米人ノ日記中ニモヨク中國ニ來遊シテ繁ベテノ中國來ヲ
見ハストモ北京家鴨ノミハ度ハサレハ今回ノ旅行モ無意味ナラン
アルハ北京家鴨ノ如何ニ美味ナルカヲ物語ルモノナリ

4. 種病少シ

北京鴨ノ種ノ強壯ナルハ他種家鴨ノ及ハサルトコロニシテ病害ニ到
スル抗抗力小極メテ大ナリ北京四京四郊ノ養鴨者ハ疫病ノ發スル毎ニ死
亡甚シク時ニ全滅スルコトスラ稀ナラス然ルニ養家鴨者ニハ此危險
ナク現地業者ノ言ニ依ルモ假令發病スルモ罹病（疫毒症）程度ノモノ
ニテ氣味（嗅）悪老（老衰）等ハ先大的ノモノナレハ病氣ト見做サレ
ストキ盛シ家鴨ニ病氣ガキハ本身ニ抵抗力ノ大ナルハ言ヲ俟タサルモ
家鴨自身カ氣候ノ変熱ヲ調節シ得ルコトモ亦大ナル原因タルナリ例
ヘハ暑ノ時家鴨カ水ニ入リテ暑熱ヲ減シ寒冷ノ時ハ羽毛密生シテ温
度ヲ保ツ等皆熱共ニ侵サレサレハ種病少ナク盛者ヲシテ利益大ナ
ラシムルナリ

5. 羽毛

北京家鴨ノ羽毛ハ純白ニシテ種々ノ用ニ使用セラレ米ニ羽蒲團、枕
ハ白色ヲ貴フカ爲歐米各國ニ於テ頗ル歓迎サル、雜色毛ハ一時三百
五十錢ナルニ比シ白色毛ハ一時七圓ナリ、一九二四年ノ羽毛輸出ノ總
高ハ關平銀二百餘萬兩ナルカ此ハ雜色羽ナルヲ以テ若シ純白毛ナル
トキハ金銀之ニ倍スルカ故ニ北京家鴨ノ飼育法

5. 飼育法

甲、幽家鴨ハ白眼鴨、明鴨、無頭鴨、甲子鴨、北京白河鴨ノ五種ニ分ツ
內種類ノ敢モ劣悪ナルハ白銀鴨敢モ佳モ佳ナルハ北京白河鴨ナリ（以下北
京家鴨ト稱ス）北京家鴨ハ其他各種鴨ニ比シ特徴多キモ養育易カラ
ス且ツ其卵大ナル爲孵化敢モ四雛ニテ北京及大津ニ於ケル從來ノ北京
種家鴨卵孵化者ハ皆抱ヲ利用シテ孵化セシムルヲ常トス、人工及其他
孵化器ヲ利用シテ孵化スルハ元全ナル成績ヲ收メ難シ、現地ニ於ケル
家鴨養育ノ目的ハ
（一）肉用
（二）卵用
（三）玩賞用
（四）作物保護用
ノ四種ニ分チ家鴨養育業者ハ其育養法ヲ圍飼法ト放飼法ノ二種ニ分ツ

研-0659
0125
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

同家畜飼育ノ技術論ヲ以テスレハ

(甲)迅育法

(乙)肥育法

(丙)卵育法

ノ三種ニ分チ得

此三種育ノ技術ハ各飼養者ニ必リテ異ナリ一年ノ内ニ於テモ春秋冬三季ノ飼育ハ小同シカラス、蚕スルニ此飼育法ハ全ク專業ニシテ家畜ニ特有ノ技術ナレハ多ク秘密ニ所スルカ故北京家畜業ノ發展ヲ阻ムコト大ナリ、今其三ツキ概略ヲ述ヘン

二、迅育法

一、餌料

家畜ハ凡テ成發後約餌シ五十餘日ニシテ體重約三斤ニ達シ即チ滿六一八工ニ成ル餌ヲ與フルモ可トナレルヲ言フ一トナル、コノ期間内ニ於ケル滿雜迅育ニ要スル餌料ハ

一、煮米　五割

二、生ノ割綠豆　四割

三、煮黑豆　一割

五十餘日ノ所要穀類ハ一初ニ付約一斗ヲ要シ此外小蝦又ハ蝦皮ヲ十分ノ一及水草又ハ菜葉ヲ十分ノ七ヲ加フ、以上ハ普通家畜ニ與スル穀モ亘要ナル餌料ナルカ又小麥、大豆、玉蜀黍、雜穀、割米並ニ田螺、泥鰌、蝦、烏貝、蝦殼、蟲等モ有效ナル餌料ナリ

二、新餌

雜ハ成殼後十二時間ヲ經過セハ水ヲ充面器ノ如キモノニ入レ雜ヲ其中ニ放チ水ヲ飲マシムルナリ、水ノ深度ハ一寸ヲ適度トス、約五分ノ後雜ヲ取リ上ケテ乾草ヲ人タル龍ノ中ニ移シ與毛乾ケハ雜ヲ再ヒ餌龍内ニ放チ毛眞法ニヨリテ飼育ス、毛眞法トハ餌龍内ノ雜ノ全身ニ流來ヲ所有スレハ雜ハ食必ヲ促カサレ約二十分ノ後ニハ飽食スルニ至ル飽食セシヤ否ヤハ指ニテ雜ノ頸下ヲ探リ食嚢ノ充分ナルカラ觀察シ若シ充分ナラサレハ飽食スル迄毛眞法ヲ行フモノトス、飽食セハ餌龍ヨリ取リ出シテ他ノ乾草類内ニ移ス、新餌ハ毎日朝五時午后一時晚ノ八時ノ三回トシ、餌後ハ必ス上述セシ如ク帝水ヲ與ヘテ水份セシメ且ツ目由ニ飲水セシムルモノトス、以上ハ初習者ノ雜飼育法ナルカ慣熟スル學門家ニ至ツテハ毎日朝四時及ヒ十時、也シ午后ハ四時及ヒ十時ノ四回ニ餌料並ニ水份ヲナサシムルモノナリ、但シ餌料ニハ必ス雜ノ頸下ヲ

研-0659

0126

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

採リテ元全ニ消化セルヤ否ヤヲ一回試ミ若シ充分消化セサルモノアラハ之ヲ取リ出シテ清水ヲ與ヘ而其一回停止セサルヘカラス此種遺育法ハ相當ノ經驗ヲ有シ始メテ能フモノナレハ初由者ハ一日三回時間ヲ取モ適當トスヘシ初メテ放ヲ脫シタル雛ハ一週間内全然煮米ヲ與ヘテコレヲ三週間ノ間繼續スルト共ニ十分ノ四ノ水ニ漬ケテ膨シタル生剖豆ヲ與ヘテ後ノ十分ノ四ノ米粟ヲ添加ス早栗ハ卵黄粉末ハ早成モ良ク其他經驗早ノ如ク次ニ及ヒ地ニ生長スル野菜ハ自然ニ生長スル野菜ハ日毎ニ早朝十分ノ一宛ヲ增加シ其量ハ全部量ノ十分ノ七ニ達シタルト共ニ草粟ノ增加ハ脫殼十日後ヨリ其代ノ十分ノ四ヲ混シ五日後ヨリ其代ノ十分ノ三トシ約五十疎日ヲ經テ雛ハ成長ス初期間育雛ノ時約十日間十分ノ一ノ小麦ヲ與フレハ雛ノ清足羽毛ハ漸次淡黄色ニ變シ殺ノ時分ノ光澤モ生スルカ乏ヲ與ヘサルトキハ其羽毛清足ハ漸次淡黄色ニ變シ殺育順調ヲ欠キ發病シ易シ故ニ小麦ハ重要不可缺ノモノナルヲ以テ若シ無キトキハ蝦皮ヲ砂末トシテ之ニ代フヘシ

給水

以上述ヘタル如ク給餌後ハ其都度一回水ヲ與ヘ遠育期間中ハ必ス感冒

シ又ハ與ヘサルヲ最モ不可ナルコトトス、尚飲水ハ清潔帝炎ナルモノヲ與ヘ給水ニ際シテハ雛ノ糞ヒ移リタル後水桶ノ中ニ入ルカ又ハ池ノ中ニ放チ飲水ト水浴ヲ共ニナサシムヘシ、其時間ハ雛ハ五分間成長後ハ十分間ヲ適度トス

溫度

(一)雛ニ適スル溫度

初メテ脫殼セル雛ハ二十四時間内八十度以上ノ溫ヲ適度トス、五日後ハ六十度乃至七十度ノ溫度ヲ保持スルヲ宜シトス

(二)暴風防止

運送時期及育雛ノ初期ニ當リ暴帝ナル空氣ニ觸レ風雨ニ晒サルルヲ最モ忌ムナリ、而シテ家鴨飼育者ノ初期ニ於ケル失敗ノ最大原因ハ雛體ヲ冷ヤスコトニ依ルモノナレハ運送及育雛ニ保溫ハ缺クヘカラス

(三)耐寒練習

雛運育ノ初期第一ニ雛體ノ耐寒ノ練習ヲナシ漸進的ニ敢テ寒ト冷水浴ニ對スル抵抗力ヲ生スル如クナススル時ハ雛ハ自ラ暴帝ヲ寛ヘ互ニ奇リ

(四)暴帝防止

育雛室ノ溫度不足ナル時ハ暴帝ヲ寛ヘ互ニ奇リ添ヒ又ハ溫度不足ノ證據ニシテ具吾ハ暑熱ヲ込等ナス、此レハ溫度ヲ高シク昔鶏飼育者ノ常ニ失敗スルトコロナリ、防止万法トシテ先ツ雛ヲ卓上又ハ室内ニ移シテ溫度ヲ少シ上昇セシムルカ又ハ雛

研-0659

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

6. 重ネテ室温ヲ一箇所ニ集メ温度ヲ漸次高クスル、但シ温度高過キサルヨウニシ以テ雛ノ耐表刀ニ障害ヲ及ホシ又ハ悪習慣ヲ來ササルヘシ

三、肥育法

イ、時期

春夏秋冬中春季ハ肥育ニ最モ適シ夏季ハ比較的凶蚕ナリ、尊業者ハ冬季肥育セシメ豊富ナル利益ヲ收ム、肥育ニ着手スルニハ五十餘日ク雛最モ良シ、即チ體重約三斤ニ達シ繭ヲ吸過トシ早過キルモ晩過クルモ良シカラス、肥育トハ所謂眞偽ハ肥滿セシムル意味ヲ以テ元成ス

ロ、設備

所用器具ハ凹一箇、家鴨籠二個、網簿二本、七輪一台、急臨一個、鋏一箇、其他雑品等

3. 餌料

先ツ麩皮並ニ屑米網粉各々三斤半ヲ凹ニ入レ熱湯ヲ注キ網簿ニテ攪拌シ溶厚ナル糊狀トシ之ニ尚粱五斤ヲ加ヘ更ニ攪拌シ次カク四ル毛度ニ

シタル後長サ約三寸半、巾約八分ノ太サニ作リ常温ス

4. 與食

先ツ家鴨ヲ押ヘ兩膝ニテ其翼ヲ狹ミテ動カサルヨウニシ手ヲ以テ口ヲ開キ片手ニテ上記薬狀ニ作リタル餌ニ溫水ヲツケテ口内ニ與人シ頭部ヲ上ヨリ下ヘ扱リテ餌ヲ咽下ケ因元迄語マリタルトキ又ヲ止ムナリ、毎日朝七時ト晩七時二回宛行フ、成長セル家鴨モ同シク初期ニハ上記餌ヲ六七個ヲ與人シ五日後ハ一日ニ一個宛增シ十二個ニ至リテ止ム、九日目頃最大ナル家鴨ハ與入量モ多ク全部ノ與入終レハ補ニ飲水ヲ滿シテ充分飲水セシム、給水ハ晝間三回、夜間モ小三回行ナヒ此ヲ繼續スルコト十八日間後ニシテ肉肥滿スルニ至ル、但シ肥育日數ハ多クモ二十五日ヲ超ユヘカラス、斯クシテ小ナルモノト雛モ四斤半大ナルハ九斤ニ及フモノスラアリ其成績ノ良否ハ全ク雛ノ有無ニヨリテ定マルナリ

5. 飲水

與食了ノ都度必ス一回給水シテ消化ヲ助ケシム又毎日晝間又ハ夜間十二時頃ニハ腹中ノ食物ヲ大部分消化スルヲ以テ小量ノ飲水ヲナサシムヘシ

研-0659

0128

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

嘴入スル二時間前ニ再ビ給水シテ肉囊ニ在ル水分ノ消化スルヲ俟チ嘴

入ニ着手スルモノトス

給水ハ昼夜ノ別ナク間斷ナク與フヘシ凡テ肥育成績ノ優劣ハ全ク攻飼

經驗ノ如何ニヨルモノニシテ經驗ニ富ム者ハ飼料ヲ省キ肥育迅カナリ

之ニ反シ經驗乏シキ者ハ再科ヲ多ク費シテ肥育遲ク利益ニ不ナル丈其

ノ取大抵係ハ飲水ニ在リ水料多ケレハ肥リ難ク少ナケレハ即チ

消化容易ナラサルヲ以テ其加減ニハ細心ノ留意ヲ拂フヘキモノトス

6 肉育 嘴ノ肥育着手ニ先チ嘴部ノ大小輕重並ニ必要等ニ依リ夫々區別シ等シキモノヲ一團内ニ飼育スヘシ此際注意スヘキハ

(一) 遲フ除ハ後カニスヘシ

(二) 正午及夜半腹中ノ食物ハ全部消化セシメ若シ消化セサルモノアレハ更ニ少量給水スヘシ

(三) 毎日嘴ハ一回水浴ヲ要スルモ若シ嘴肥滿シ迫フニ困難ナルトキハ二日ニ一回水浴セシムルモ可ナリ

卵用ノ家鴨ハ三種ニ分ツ

(一) 北京白河鴨ハ我國最良ノ種類ニシテ體大ニ肉質ニシテ發育特ニ速ク産卵多ク産卵期長キカ故ニ專業家ヨリ大イニ歓迎サル種家鴨ハ産卵期間中雌一羽ニ付雄三羽ヲ配ス

(二) 番鴨ハ胡鴨及青頭鴨ト白河鴨ノ交配種ニシテ長半卵用種ナリ其體重ハ北京鴨ヨリ稍小ニシテ且ツ速發成長比較的遲シ故ニ肥育專業者ヨリ歓ハレサルモ反面ニ適スルヲ以テ皆通飼育者ハ多ク之ヲ産卵ニ利用シ其雛ヲ肉化シテ販賣ス凡テ既設養鴨村ニ於ハレ養育セラルルハ此種ナリ只雛育専者ハ常ニ之ト異ナル種類ノ雛ヲ混入シテ利ヲ貪レハ將ヲ呼住意スヘキナリ

(三) 胡鴨ノ羽毛ハ全體水色ニシテ地被アリ産卵期多キモ小サク卵育肉育共ニ宜シカラサレトモ野性ニ近ク放飼谷易ニシテ産卵ヲ目的トスルモノナリ而シテ胡鴨ハ大然飼料ヲ取レハ飼料ヲ節約シ得又鴨卵加工者ヨリ需要多ク所謂松花皮蛋ハ番乙ニテ製造スルナリ

凡テ卵種鴨ニハ雌ヲ配セス飼育スルヲ常トス種用家鴨ノ選擇法ハ成熟シテヨリ二回月ヲ經タルモノヲ或モ佳トシ春三月孵化シタルモノハ五個月間ニ成長シ九月初(約六ケ月ヲ經過ス)産卵

研-0659
0129
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

ニ入ルカ故以後ハ卵育方法ニヨリテ飼育スヘシ

2. 産卵期

天然産卵期ハ春季及秋季トスルモ人工ニ依リ多期厳寒中モ産卵セシム

ヘク此等長期ニ亘ル青卵ハ北京家鴨業者特有ノ技術ナリ、朔鴨及甲子鴨ノ春夏産卵ハ日二十個乃至日五十個、秋季ハ二十個乃至五十個産度ナリ、北京日河鴨ハ一年生ノモノハ翌年五月迄九ケ月連續二日間乃至二百五十個ニ及ヒ之ニ秋季産卵五十個ヲ加フルトキハ一年ニ三日間以上ニ達シ生産業中最モ遠ク最モ利益多キ事業ト謂フヘキナリ、京津家鴨專業家ハ三十餘羽ヲ飼育シテ凡ソ七八家族ノ生活ヲ維持シ得ルト言フ而北京專業者ノ言ニ依レハ多産飼育法トシテノ種家鴨ハ二年毎ニ決フヘク、三年以上ノモノハ成績芳ハシカラストナリ

3. 設備

種家鴨産卵至ハ朝日ノ直射ヲウク南面セル至最良ナリ室内ハ廣闊ニシスト雖ブヲ置ヘ卵面モハ廻轉器ヲ取付外ニ飼槽水槽各々二個、藁十把乾土鴨糞一貫ナケレハ鴨ハ室ニ入ラサレ乾燥セル糞土ト火セル二ケ所ヲ設クヘシ、家鴨小屋ハ他ニ近キ面所又ハ蛾魚ノ多ク棲息スル河流、湖沼最モ良シ

4. 給餌

産卵期ニ在ル種家鴨ノ餌ハ均シク迅育的餌料ト同シカ又ハ設分ノ稍

藁ヲ加フルモ可ナリ、桑村ニ於ケル飼育ハ如何ナル穀類ヲ與フルモ宜

蛾又ハ雑草種子ヲ食フモ皆可ナルカ專業者ノ飼育法ハ別ク放任セス、

最モ良キ穀類ヲ與ヘテ之ヲ産卵保守ヲ意圖スルナリ、若シ天然餌料ノ

ミナラハ不時ノ天変ニ依リ餌料之セルトキ保ルニ依ナク産卵中止ニ過

フヘキヲ以テ天然餌料ハ專業者ノ保ラサルトコロナリ、今北京特産産

卵期ニ用フル餌料ヲ左ニ示ス

煮老尚粱　四割　煮粟　一割

生粟　一割　煮燕豆　二割

水草　二割

以上ノ餌料ヲ混合攪拌シテ良研ニ入レ清水ヲ加ヘテ毎日朝、晩、晩及

夜中ノ四回ニ與ヘ外ニ水谷研ヲ直キ随時清水ヲ與スヘシ、多季ニ在リ

テハ小蛾又ハ生蛾皮ヲ餌料ノ十分ノ二加フ、別法トシテ生蛾皮一斤ヲ

煮直キ糸餌時ニ生ノモノ一斤ト交セ與フルモ可ナリ、産卵期間中毎回

研-0659

0130

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

ノ給餌量ハ成ニ増減スルヲ避ケ等什者ヲシテ長期間之ニ当ラシムル
コト肝要ナリ

5. 給水

産卵期ハ飲水料多カラサルモ産卵開始スルヤ飲水料ハ日ニ増加スル
ノ成分ニ多量ノ水分ヲ必要トスルナリ、飲水ニ際シ注意スヘキハ毎
日少クトモ五回入浴ヘ容器ハ其都度洗ヒ常ニ清潔ヲ旨トスヘシ

6. 温度

至内ノ温度ハ温度ヲ保チ空気ノ流通ニ注意スヘシ、取モ忌ムハ熱キ
コトナリ低温ニシテ産卵至ハ冬季室内ニ相々結氷ヲ見ル程度ヲ良トシ
室内四季ノ平均温度トナラハ之ヲ用ス、初春及秋
禾産卵期ニ入リタル種鶏ハ昼夜共戸外ニ放置シ室内ニ入ルヘカラス、
若シ人ルコト早キトキハ首部ノ羽毛脱落又ハ換羽シテ為ニ産卵停止
シ損失大ナリ、春秋冬三季ノ飼育期間ハ室温モ参考計ニテ決定シ無キ
故恭ク飼育者ノ経験ニ依リ適当ノ低温トナシ極端ノ昔任ト合スル如ク
努ム、恭安ノ範囲ハ定メテ曾頃ヲツケ其レヲ変スヘカラス、同夜間
ノ変更ハ飼育法ヲ改ムルコトナリ従ツテ温度ノ参考ヲ生セシムル結
果ヲ来シ又飼料ノ変更量増減等ニ依リ産卵停止スルヤモ知レサレハ

任意スヘキコトナリ

7. 育雛

産卵種鶏ノ育雛法ハ次ノ四項ナリ

(一) 増餌

産卵期ハ先ツ秋季産卵ノ老家鶏一已ニ一年以上産卵シタルモノ)ニ就キ言ヘハ五月頃ニ大約既ケシ種鶏
ノ餌料増加時期ハ偶一年(約八十羽内雄二十羽)ニ到シ普通七月十五日以前一個月
餌料増加スルヲ宜トス老種鶏ハ大体八月中旬ニ産卵スルヲ以テ若シ一個月遅延スレハ産
卵不能トナルヘシ、尚海道ナレハ十月モ産卵スルハ勿論翌年五月迄モ種鶏ニ生ルヘシ、又雛鶏育ナレ
ハ三月初旬育法ニ依リ上述餌料ヲ毎日朝夕ノ三回給与シ一夜間
ノ餌料ニハ清水少量ヲ加フヘシ

(二) 給水

毎ニ飲水ハ一日ニ少クトモ五回取換フ同具都度谷器ヲ充ヒ二日
毎ニ傷ヲ以テ充除シ後固及其他所煮沸ヲ殺菌除去スヘシ更ニ毎回
ノ給餌ニハ餌量ト同量ノ清水ヲ加ヘ家鶏カ良ク終リタル後残餌ヲ
(三) 水浴ハ之ヲ洗ヒ清潔ニス

研-0659

0131

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

水仔ハ家禽飼育上最モ安全ニシテ春秋冬不早楽氏ノ説ニ曰ク、夜、貝殻ノ多キ地位ニ日中及夜間遊泳セシムヘシ、其目的ハ

一、飲水ヲ飲ミ

二、父母セシメ

三、自由ニ餌ヲトラシメ

四、風脂増卵ノ局

五、羽毛清潔ニナスモノニシテ産卵ニ必要ナリ

六、早朝七時前餌元ヲ設地内ニ成テ暖カニ遊泳セシムルハ最モ肝要ナリ

鶏舎ノ作リ方

家鶏小屋ハ戸外ノ平地ニ設ケ内ニ巣ヲ敷キ内部ノ南端ニ箇所ヲ浮ヘ巣ノ飯ハ清潔ヲ用ヒ底ニハ乾キタル藁屑ヲ用フ一ヲ厚ク敷キ其上ニ又巣ヲ敷ク藁屑ハ産卵ニ当リ巣ヲ修シテ

コノ裏面ハ小屋内ノ巣土及草片ヲ日光ニテヨク乾シ砂不トシテ

以上ノ如ク巣ノ飯ハ清潔ヲ用ヒテ長方形ニ作リ底ニ乾巣ヲ敷クヲ良ト

ス乾巣ハ砂土ヨリ保温尚キカ故ナリ、斯ノ如ク巣ヲ作リ終リタル上ハ晴間日光ニ乾カシテ巣及土巣ニ温浸ヲ保タシメ尚屋根ヲ作リテ夜間ノ猫鼠ヲ防クモ必要保件ナリ、冬季若シ屋内ニ作レハ別ニ屋根ハ必要トセス

（以上）

研-0659

0132

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

畜産
261
561

秘

昭和十四年十一月

北支家畜防疫對策（案）

興亞院華北連絡部
經濟第二局

目次

第一　方針
第二　要領
(一)　全般的基礎施設
(二)　業務
(三)　家畜防疫
A、對外家畜防疫
B、國內家畜防疫
(四)　血清類ノ製造並ニ準備
(五)　家畜防疫技術員ノ養成
(六)　畜產指導地ニ對スル家畜防疫

研-0659
0133
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

北支家畜防疫對策案

第一　方針

家畜傳染病ノ發生並流行ヲ未然ニ防止スルト共ニ發生セル家畜傳染病ハ迅速ニ之ヲ撲滅スルコトニ依リ家畜資源ヲ保護維持シ改良增殖ニ資シ畜產ノ發達ト有畜農業經營ノ振興ヲ圖ル

第二　要領

(一)全般的基礎施設

一、家畜傳染病ノ豫防制遏ニ關スル事項ハ臨時政府實業部ニ畜牧局家畜防疫科ヲ設ケテ之レヲ行ヒ各省、各特別市、各市、各道、各縣公署ニハ家畜防疫擔當機關ヲ設ケテ直接家畜ノ防疫ニ從事セシム

一、家畜傳染病ノ豫防制遏ニ關スル試驗研究並ニ血清類ノ製造ハ中央農事試驗場之レヲ行フ

一、各海關及家畜防疫上必要ナル地區ニハ家畜檢疫所ヲ設ケ輸移出入並國內輸送ノ家畜及畜產物ノ檢疫並消毒ヲ行フ

一、家畜傳染病豫防制遏上必要ナル技術員ヲ急速ニ養成スル爲メ中央農事試驗場農業技術員訓練所ハ速ニ之ヲ擴充整備ス

一、畜產奬勵ニ直接關係ヲ有スル民間諸會社、農村合作社、畜產組合、家畜市場等ニハ家畜防疫ニ關スル擔當機關ヲ設ケシメ家畜傳染病ノ豫防制遏ニ協力セシム

一、家畜傳染病ノ豫防制遏ニ關シ日本側ハ技術的資材的援助ヲ行フ

一、家畜傳染病豫防制遏ニ關スル法規ハ家畜防疫諸機關ノ製備充實スルヲ俟チ之レヲ統合規定ス

一、家畜傳染病ノ豫防制遏ニ關シ特ニ馬ニ關スル防疫ト其ノ他一般家畜ノ防疫トヲ區別スルコトナク行政機構其ノ他一般防疫施設ハ總テ一元的ニ之レヲ行フ

(二)業務

一、實業部畜牧局家畜防疫科ハ家畜傳染病ノ豫防制遏ニ關スル諸企

研-0659

0134

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

豎ノ統合、管理諸機關ノ指導監督ヲ爲ス外左ノ事項ヲ行フ

(イ)各省並主要道、特別市ニ對スル家畜防疫技術員及家畜防疫費ノ配付（範圍ハ別ニ定ム）

(ロ)家畜衛生思想ノ普及啓發ニ必要ナル奬勵方策（印刷物、講習、講話）

(ハ)各關係機關トノ連絡

一、各省、特別市、道、縣公署ニ於テハ關係機關ト連絡シ家畜防疫上必要ナル處置トシテ血清類ノ注射、罹病家畜ノ殺處分、病毒汚染畜産物ノ焼却、埋却、家畜並畜産物ノ移動停止、檢疫、消毒、家畜衛生思想ノ普及等ニ關スル事項ヲ行フ

一、家畜檢疫所ハ輸移出入及國內輸送家畜並畜産物ニ對スル檢疫並消毒、必要ナル場合ニハ血清類ノ注射ノ實施、罹病並病毒汚染家畜及畜産物ノ輸移出入及移動ノ停止又ハ禁止、殺若クハ焼却、埋却又ハ消毒等ヲナス

各海關附屬ノ家畜檢疫所ノ業務ニ關シテハ實業部長之ヲ厲督ス

一、中央獸疫試驗場家畜防疫科ハ家畜傳染病ノ豫防制遏ニ關スル調査及試驗並ニ血清類ノ製造配付ヲ爲ス外左ノ事項ヲ行フ

(イ)病理材料並血清類ノ檢定

(ロ)防疫技術員ニ對スル講習

(ハ)豫防、消毒及治療ノ方法ノ研究

(三)家畜防疫

北支家畜傳染病ノ豫防制遏ハ各傳染病ノ病性、防疫施設ノ狀況、血清類ノ狀況、豫防制遏ノ方法ノ難易、從來並現在ニ於ケル發生狀況、損害ノ程度、公衆保健衛生トノ關係、各種農村對策ノ實施、治安ノ狀況、其ノ他ヲ考慮スルトキハ各傳染病ニ付キ自ラ順序ヲ生ス

依ツテ先ツ牛疫ノ如ク急性ニシテ蔓延傳播ノ極メテ早ク被害ノ最モ大ナルモノヲ第一ニ置クコトトシ其ノ他ノモノニアリテハ各個

研-0659

0135

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

ニ付キ恒久的豫防制遏或ハ臨時應急的豫防制遏ヲ計畫的ニ行フ如ク
シ前述ノ牛疫ノ外狂犬病、炭疽、牛結核、鼻疽、牛肺疫、羊痘、羊ノ疥
癬、豚コレラ、豚丹毒、豚疫、野獸疫（出血性敗血症）家禽コレ
ラ、家禽チフテリー、雞白痢、口蹄疫等ヲ對外的ニハ檢疫豫防ス
ルコトニ依リ國内ノ發生豫防ニ付テハ國内家畜防疫ニ依ル方法ヲ
實施スルモノトス

(A)對外家畜ノ防疫

北支ノ無國境的家畜ノ移動狀態ヨリシテ各種ノ家畜傳染病ハ自
在ニ侵襲スルヲ以テ各海關及防疫上特ニ必要トスル地區ニ家畜
檢疫所ヲ設ケ病毒ノ侵入ヲ防止スルノ要アリ
加フルニ北支貿易主要品タル輸出畜産物ニ付テハ從來共病毒傳
播ノ危險性多ク海外信用ノ向上ヲ計ル必要アルニヨリ之等ヲ檢
疫並消毒セントス
之カ爲メ家畜ノ檢疫制度ヲ確立シ家畜檢疫所ヲ設置シテ之等ノ
被害ヲ防止シ家畜防疫ノ徹底ト畜産物輸出ノ振興ヲ計ルモノト
ス

一、家畜檢疫所ニ於テ檢疫ヲ行フ可キ家畜並畜産物ハ左ノ如クト
ス

（家畜）牛、馬（騾驢ヲ含ム）、駱駝、山羊、緬羊、犬、豚、
鷄、鴨、（畜産物）皮、革ヲ除ク、毛皮、豚毛、羊毛（緬羊
、山羊）、駱駝毛、馬毛、羽毛、骨、角、蹄、鳥卵及仝加工
品、獸鳥肉及仝加工品

二、家畜檢疫所ハ左記各地ニ設ケ檢疫技術員ヲ配置スルモノトス

イ、海關
天津、青島、芝罘、秦皇島、龍口、威海衛、山海關、古北
口、南口
ロ、家畜交易場
太原、易縣、石家莊、新鄉、開封、徐州、濟南、臨汾

研-0659
0136
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

三、輸入檢疫

輸入檢疫ニ於テハ特ニ罹病家畜ノ侵入ヲ防止スル爲メ家畜ヲ繫留シ病理學的血清學的診斷ニヨル檢疫ヲ行ヒ無毒ノモノノミヲ輸移入セシムルモノトス

各家畜ニ付キ檢疫上特ニ注意スヘキ疾病ハ次ノ通リトス

牛　牛肺疫、牛結核、牛疫、炭疽、野獸疫（出血性敗血症）、氣腫疽、口蹄疫、牛ノ傳染性流產

馬（騾驢ヲ含ム）　鼻疽、馬ノ傳染性流產、疥癬、炭疽

豚　豚コレラ、豚丹毒、豚疫

羊（山羊、綿羊）　羊痘、疥癬

犬　狂犬病

鷄鴨　家禽コレラ、家禽チフステリー、雛白痢

駱駝　駱駝ノ傳染病

家畜檢疫所ヲ常ニ通過、往復シ貨物ノ輸送ニ從事スル家畜ニ付テハ檢疫ノ上一定ノ期間健康證明ヲ與ヘ其ノ間ノ通過ニハ毎回檢疫ヲ行ハサル如クス

家畜並其ノ證明期間ハ次ノ如クス

牛　牛疫ノ豫防液ヲ注射シタルモノニ限リ　六ケ月間

馬（騾驢ヲ含ム）　マレインノ皮內診斷ニ依リ健康ノ證明アルモノニ限リ　一ケ月

輸移入畜產物ニ付テハ一般檢疫學的檢査ヲ行フモ特ニ必要ヲ認メサルモノハ消毒等ハ行ハサルモノトス

四、輸出檢疫

北支輸出家畜並畜產物ニシテ家畜ノ傳染病傳播ノ原因トナリ爲メニ海外諸國ヨリ常ニ家畜防疫上危險視セラレ輸入制限若クハ禁止セラルルモノ尠カラス品質優良ナルモノモ不良、價

研-0659

0137

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

格低廉ノ極印ヲ示サル、ニ依リ家畜ニ付テハ輸入檢疫ニ於ケルト同シキ檢疫ヲ行フト共ニ畜産物ニ付テハ消毒若クハ生産保健證明ニヨリ海外信用ノ向上ト輸出ノ安全ヲ期スルモノトス

各畜産物ニ對シ行フヘキ消毒等次ノ如シ

絶体的ニ消毒ヲ必要トスルモノ　豚毛、骨、角、蹄

生前ノ健康證明ヲ必要トスルモノ　獸腸、皮、牛、駱駝、羊、豚、獸肉

五、檢疫シタル家畜並畜産物ノ處置

家畜並畜産物ニシテ檢疫ノ結果病毒傳染若ハ傳染ノ虞アルモノ並檢疫上特ニ必要アルモノニ對シテハ輸出入ノ禁停止、醫留、殺、消毒、燒却、埋沒、豫防注射ノ施行等ノ處置ヲ行フモノトス

(B) 國内家畜防疫

家畜傳染病發生ニ際シテハ直ニ家畜防疫技術員ヲ派シ屍体ノ檢案、病毒汚染物ノ燒却、埋沒又ハ消毒スル外、家畜ニ對スル血清類ノ注射ヲ行ヒ之ヲ豫防制遏ス

各々ノ家畜傳染病ニ對スル方策次ノ如シ

一、牛疫

北支ニ於ケル牛ノ供給源地ノ關係ヨリ從來屢々急性若クハ潜在性ノ牛疫侵入シ爆發的ニ蔓延流行シ慘害ヲ逞フシタルコト多キニ鑑ミ從前ノ家畜ノ取引移動ノ狀況並流行狀態ヲ考慮シ牛疫ノ侵入經路ヲ推定シ該地域並特ニ必要ト認ムル地區ニ對シ毎年豫防注射ヲ勵行シ牛疫免疫地帶ヲ構成シ本病ノ侵襲ニ備フ之カ爲メ中央幾事試驗場ニ於テハ牛疫「ワクチン」及血清ヲ左記ノ如ク製造準備スルト共ニ各地家畜ノ檢疫所ニ於テハ輸移入牛ハ總テ豫防注射ノ完了シタルモノノミヲ許可スルコトトシ苟モ万一侵入發生シタル場合ハ早期發見ニ努メ（特

研-0659

0138

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ニ家畜市場、屠宰場）集中防疫（畜牧局家畜防疫科、中央獣事試驗場家畜防疫科防疫指導班、關係省、市、道縣、公署、家畜防疫技術員ノ綜合防疫）ニ依リ之ヲ制過スルモノトス

而シテ豫防方法ハ血清若ハ豫防液ノ注射又ハ共同注射ニ依ルモノトシ免疫帶成地帶、豫防注射實施豫定頭數等ハ次ノ如シ

(イ)侵入經路及免疫帶成地帶

地區	侵入經路	免疫帶成地帶 第一期	免疫帶成地帶 第二期以後
第一區	内蒙ヨリ張家口又ハ沽源ヲ過リ八達嶺ヲ經テ北京方面ニ來ルモノ	北京、天津及其ノ附近	遵化、薊州、平谷、密雲、懷柔
第二區	多倫ヨリ承德ヲ過リ古北口、羅文峪、馬蘭關、黃崖關ヲ經テ北京方面ニ來ルモノ	仝　右	昌平、傍山、良鄉、宛平
第三區	承德、錦州方面ヨリ山海關、庙口、山口、界領口、冷口、喜峰口ヲ經テ冀東地區ニ來ルモノ	唐山、山海關、昌黎及其ノ附近	豐潤、遷安、撫寧
第四區	大同方面ヨリ渾源、蔚縣ヲ過リ淶源ヲ經テ易州、保定ニ來ルモノ	保定、易州及其ノ附近	淶水、易州、滿城、唐州、望都
第五區	太原ヨリ石家莊及五台ヨリ定州方面ヘ來ルモノ	石家莊、定州及其ノ附近	定州、曲陽、新樂、平山、元氏、獲鹿、井陘、正定、石家莊
第六區	南部太行山脈ヲ越ヘテ順德、彰德方面ニ來ルモノ	順德、彰德及其ノ附近	寶畠、臨城、內邱、順德、沙河、邯鄲、彰德、磁州
第七區	河南ヨリ黃河ヲ渡リ開封、蘭封方面ニ來ルモノ	新鄉、開封、蘭封及其ノ附近	輝縣、新鄉、獲嘉、陽成、開封、蘭封、陳留
第八區	徐海道南部ヨリ山東省ニ入リ來ルモノ	徐州、海州及其ノ附近	仝　上
第九區	山東省各地ヨリ濟南ヲ中心ニ集ルモノ	濟南、兗州、濟寧及其ノ附近	仝　上
第十區	西部山西ヨリ太原方面ニ來ルモノ	太原、楡次、臨汾、運城及其ノ附近	仝　上

研-0659

0139

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

第十一區	濟南及魯東地區ヨリ青島方面ニ來ルモノ	青島市及其ノ附近
第十二區	歓迎愛護村地取	仝
		上

備考　第一期トハ自昭和十五年至昭和十七年、第二期トハ自昭和十八年至昭和二十年ヲ示ス

(ロ)注射豫定頭數

地區	第一期 自昭和十五年 至昭和十七年			第二期 自昭和十八年 至昭和二十年			備考
	昭和十五年	昭和十六年	昭和十七年	昭和十八年	昭和十九年	昭和二十年	
第一區	千000	千000	千000	千000	千000	千000	第一期ハ役牛ノ全部ト第二期ハ役牛ノ一部ト(一部ハ割ト)ス
第二區	千000	千000	千000	千000	千000	千000	仝
第三區	千000	千000	千000	千000	千000	千000	仝
第四區	三00	三00	三00	三00	三00	三00	右
第五區	三00	三00	三00	三00	三00	三00	仝
第六區	三00	三00	三00	三00	三00	三00	右
第七區	三00	三00	三00	三00	三00	三00	仝
第八區	三00	三00	三00	三00	三00	三00	仝
第九區	三000	三000	三000	三000	三000	三000	仝右區寧府トシテ渤海セラルルモノハ專ニ於テ行フモノトス
第十區	三00	三00	三00	三00	三00	三00	第一區ニ同シ
第十一區	千000	千000	千000	四000	四000	四000	第九區ニ同シ
第十二區	三000	三000	三000	三000	三000	三000	第一區ニ同シ
合計	二万六00	三二三00	三三三00	六六三00	八三000	一0万000	

研-0659

0140

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

三、狂犬病

狂犬病ハ人畜共通必死ノ家畜傳染病ニシテ都市人口稠密ナル為ニ於テ特ニ被害多キニヨリ公衆保健衛生ノ立場ヲモ考慮シ各主要都市ヲ始メトシ屢次各市町村ニ於テモ野犬ノ捕獲、畜犬制度ノ確立「ワクチン」ニ依ル豫防注射ヲ定期的ニ励行シ病害ニ之ヲ撲滅スル如クス、現在實施ノ狀況ヨリシテ第一期及第二期ニ於ケル豫防注射可能豫定頭數概ネ次ノ如シ

都市名	畜犬（屠出アルモノ）概數	畜犬（屠出ナキモノ及野犬）	豫防注射實施豫定頭數 第一期 昭和十五年	第一期 昭和十六年	第一期 昭和十七年	第二期 昭和十八年以後
北京	三〇〇〇頭	二〇〇〇〇	三〇〇〇	一〇〇〇〇	一三〇〇〇	一三〇〇〇
天津	三〇〇〇	一〇〇〇〇	三〇〇〇	五〇〇〇	四〇〇〇	四〇〇〇
青島	二〇〇〇	三〇〇〇	二〇〇〇	四〇〇〇	四〇〇〇	四〇〇〇
濟南	二〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	四〇〇〇	四〇〇〇	四〇〇〇
太原、石家莊、保定、徐州、蚌埠、濟寧、徐州、唐山	三〇〇〇	三〇〇〇	三〇〇〇	三〇〇〇	三〇〇〇	八〇〇〇
其ノ他北支全部	三〇〇〇	二〇〇〇〇〇	五〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇
計	二六〇〇〇	二〇六〇〇〇	一六〇〇〇	二三〇〇〇	二三〇〇〇	二三〇〇〇

三、炭疽

本病ハ北支常在菌傳ノ急性傳染病ニシテ特ニ人ニモ感染スルノ外其ノ病原タル芽胞ハ抵抗力強ク畜産物ニ附着シテ畜産物貿易上ニモ被害ヲ及ホスコトアルニ依リ之カ發見ニ努メ（牛乳搾取場、屠獣取扱所、家畜市場、屠畜場）發生地ニハ炭疽血清及豫防液ノ應用ニ依リ緊急防遏ヲ講ズルト共ニ發生流行ノ明カナル地方ヨリ毎年炭疽「ワクチン」又ハ共同注射法ニヨル豫防注射ヲ實施シ免疫地帶ヲ構成スルモノトス特ニ綿羊改良事業ノ遂行ニ必要ナル種綿羊、都市ノ乳牛及常在流行地

研-0659

0141

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

ニハ必ス之レヲ励行シ防遏ノ完璧ヲ期ス

口蹄疫

死亡率ノ比較的僅少ナルニ比シ傳染力極メテ強ク蔓延ノ範圍ハ大ナル本病ノ制遏ハ極メテ困難ナルノミナラス牛疫ト合併流行スルコト夢シトセス依ツテ努メテ早期發見ニ勉ムルト共ニ國境、國内ノ檢疫ヲ嚴ニシ發生ニ際シテハ牛、羊、豚ノ移動ノ停止、對症療法ヲ行フ外尽ニ發生流行地ニハ緊急接種（人工感染法、快復牛ノ血清注射）等ニ依リ之ヲ防遏スルモノトス

五、牛結核

慢性ニシテ癒メテ頑強ナル本病ハ乳牛殊ニ品種改良ナルモノニ多發シ乳牛畜産ノ進展ヲ阻害スルコト大ナルノミナラス罹患牛ヨリ搾乳セラレタル牛乳ハ殊ニ小兒ニ結核病ヲ感染スルコト頗々アリ（牛乳ハ保健衛生上ニモ之カ防遏ハ緊要ナルヲ以テ乳用牛ハ必ス本病ノ有無ヲ檢査スルコトトシ早期發見ニ勉メ重症ナルモノハ乳肉トモ之カ利用ヲ禁止シ輕症ナルモノハ屠殺シ肉ヲ利用スルコトニ依リ之カ蔓延ヲ計ルヲ要ス

之カ爲メ乳用牛ハ毎年臨床的診斷並「ツベルクリン」ノ應用（皮下注射又ハ點眼法）ニ依リ之ヲ檢査シ前記ノ處置ヲトルモノトス

北支主要都市ニ於ケル乳牛頭數及之カ檢査ニ必要ナル「ツベルクリン」數量ハ次ノ如クトス

主要都市名	乳用牛頭數	檢査頭數	ツベルクリン數量	備考
北京	一〇〇〇頭	二〇〇〇	一〇〇〇〇cc	一頭當リ五〇〇トス
天津	一、三八〇	一、三〇〇	三、六〇〇	檢査頭數ハ初期五ケ年間ハ毎年五%宛增加スルモノトス
濟南	一〇〇〇	四〇〇	二〇〇〇	
青島	一〇〇	七〇〇	三五〇〇	

研-0659

0142

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

太原、石家莊、保定、新鎮、開封、鄭州、徐州、唐山等	三〇〇	三〇〇	二二〇〇
其ノ他	三〇〇	三〇〇	二二〇〇
計	六四〇〇	六四〇〇	二四三〇〇

六、鼻疽

北支馬族ニハ鼻疽恒息馬ヲ檢出スルモノ多ク其ノ數一五%以上ニ達スル而シテ本病ニハ未ダ完全ナル制遏法ナク檢出ノ道アリテ豫防ノ方法ナク病性執拗ニシテ障害上ハ勿論一般馬產上障害多ク其ノ豫防ハ遺憾ヲ困難ナル傷染病トス依ツテ本病ノ豫防制遏ハ「マレイン」ニ依ル檢出法ト鼻疽清淨地帶ノ構成ニヨリ防遏スルノ外手段無キヲ以テ順次如上ノ方法ニ依リ其ノ侵襲範圍ヲ減少セシムルモノトス、之カ爲メ差當リ都市及馬產ノ指導奬勵地ヨリ之レヲ開始スルモノトス

七、牛肺疫

病性比較的緩慢ナルタメ進ツテ其ノ傷害ハ大ナルモノアル本病ハ主トシテ屠場檢査ニ依ツノ外ナキ場合多キニヨリ屠畜檢査ノ厳行ト之ニ伴ヒ患畜ノ血清檢査ニヨリ之ヲ撲滅制遏スルノ外ナシ特ニ流行地ヨリハ牛ノ移入ヲ一定ニ制限シ之ヲ防禦スルモノトス

八、羊痘及羊ノ疥癬

綿羊改良上特ニ障害トナル可キ本病ノ防遏ニ付テハ羊痘ニアリテハ豫防注射ニヨリ、疥癬ニアリテハ藥浴、膏藥ニ依リ之カ蔓延ヲ防止スルコトトシ之カ爲メ特ニ羊場等ノ藥浴設備ヲ充實スルモノトス

然シテ羊痘ノ豫防注射ハ特ニ流行地ニ之レヲ實施スルコトトシ無毒地ニハ之レヲ施行セサル如クスルモノトス

九、豚コレラ、豚丹毒、豚疫

研-0659

0143

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

主要食肉原料トシテ支那人間ニ缺ク可カラサル處ノ豚ノ増殖上常ニ障害トナリ惨害ヲ逸フシ零細農家ノ唯一ノ副業タル生産的家畜ヲ奪ヒ且ツハ肉料ノ供給源ヲ失ハシムル本病ハ殊ク北支ニ蔓延シ年々ノ損害甚タシキコト明カナルモ未タ病毒ノ渡来地帯ナラス更ニ治安維持ト相並行シ殊ク農家ノ養豚奨励上豚防ノ效果ヲ挙クルヲ要スヨツテ差當リ鉄路要衝地區、養豚奨励特殊地區、都市附近養豚地區等ニハ「ワクチン」ニ依ル豚防注射ヲ励行シ本病ノ豚防ト副産トヲ図ルト共ニ各地家畜市場ニ於ケル取引ニ際シ検査ヲ厳ニシ進ンニ本病發見ニ努メ防遏ニ資スルモノトス

七、野獣疫

本病ノ發生並流行ノ時期區別ル豚ヲ考慮シテ常在發生地ニ對シ「ワクチン」ニヨル豚防注射ヲ行ヒ未然ニ之ヲ防止セントス

他ニ乳山羊牛ニ於ケルモノヲ初期豚防ノ對象トス

八、家禽コレラ、雛白痢

家禽コレラハ其ノ病性ノ猛烈ニシテ損害甚大ナルニ依ミ主養鶏地ニ於テハ之カ豚防注射ヲ行フコトトシ家禽増殖上ノ障害タル雛白痢ノ検出ハ他ニ改良原種鶏ニ供スルモノニ付必ス之ヲ行フ如クス

九、其ノ他ノ傳染性疾病若クハ傳染病

右ノ外一般家畜ノ傳染性疾病若クハ傳染病ニ就テハ前述ノ方策ニ則リ防疫対策ヲ講スルモノトシ特ニ損害即チ斃死率ノミニ泥セス

畜産ノ基礎確立上支障ノ大ナルモノヨリ之カ防遏ニ着手スルモノトス

(四)血清類ノ製造並準備

北支家畜防疫ニ必要トスル人的要素ノ外ニ特ニ資材的即チ血清、

研-0659

0144

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

豫防液等ノ製造準備ハ焦眉ノ急ニ屬スルヲ以テ中央農事試驗場家畜防疫科ハ左記ノ如ク血清類ヲ製造準備スルモノトス

然シテ順次必要ヲ生シタル右以外ノ血清類ハ頁ニ其ノ都度追加製造スルモノトス

病名	種類	第一期 昭和十五年	第二期 昭和十六年	第三期 昭和十七年	第四期 昭和十八年以後	第五期 昭和二十年以後	備考
牛疫	豫防液	二〇〇〇〇〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇〇〇〇	一頭
	血清	一〇〇〇〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇〇〇	四〇〇〇〇〇〇〇	五〇〇〇〇〇〇〇	一頭
狂犬病	豫防液	一五〇〇〇〇	二五〇〇〇〇	三五〇〇〇〇	四五〇〇〇〇	五〇〇〇〇〇	一頭
炭疽	豫防液（第一）	一〇〇〇〇	二五〇〇〇	三五〇〇〇	四五〇〇〇	五〇〇〇〇	一頭
	〃（第二）	一五〇〇〇	三〇〇〇〇	四〇〇〇〇	五〇〇〇〇	六〇〇〇〇	一頭
	血清	三〇〇〇〇	五〇〇〇〇	七〇〇〇〇	九〇〇〇〇	一〇〇〇〇〇	一頭
	診斷液（沈澱素血清）	一五〇〇	二〇〇〇	二五〇〇	三〇〇〇	三五〇〇	一頭
氣腫疽	豫防液	三〇〇〇	四〇〇〇	五〇〇〇	六〇〇〇	七〇〇〇	一〇頭
	血清	三〇〇〇〇	四〇〇〇〇	五〇〇〇〇	六〇〇〇〇	七〇〇〇〇	一〇頭
	診斷液（沈澱素血清）	一〇〇〇	一五〇〇	二〇〇〇	二五〇〇	三〇〇〇	一〇頭
鼻疽	マレイン	三〇〇〇	五〇〇〇	七〇〇〇	九〇〇〇	一一〇〇〇	一〇頭
牛肺疫	診斷液（アンチゲン）	一〇〇〇〇	一五〇〇〇	二〇〇〇〇	二五〇〇〇	三〇〇〇〇	一〇頭
豚コレラ	豫防液	三〇〇〇〇〇	四〇〇〇〇〇	五〇〇〇〇〇	六〇〇〇〇〇	七〇〇〇〇〇	一〇頭
	血清	三〇〇〇〇〇	四〇〇〇〇〇	五〇〇〇〇〇	六〇〇〇〇〇	七〇〇〇〇〇	一〇頭
豚丹毒	豫防液	一〇〇〇〇	一五〇〇〇	二〇〇〇〇	二五〇〇〇	三〇〇〇〇	一〇頭
	血清	八〇〇〇〇	一一〇〇〇〇	一四〇〇〇〇	一七〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇	一〇頭
	診斷液（沈澱素血清）	五〇〇	七〇〇	一〇〇〇	一二〇〇	一五〇〇	一頭
豚疫	豫防液	一〇〇〇〇	一五〇〇〇	二〇〇〇〇	二五〇〇〇	三〇〇〇〇	一〇頭
野獸疫	豫防液	六〇〇〇〇	一〇〇〇〇〇	一四〇〇〇〇	一八〇〇〇〇	二二〇〇〇〇	一〇頭
家禽コレラ	豫防液	一〇〇〇〇〇	一五〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇	二五〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇	一〇羽
	血清	五〇〇〇〇	七〇〇〇〇	一〇〇〇〇〇	一二〇〇〇〇	一五〇〇〇〇	一〇羽

研-0659

0145

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

牛痘	牛ノ伝染性流産	康健	家畜ペスト	家畜ジフテリヤ
海豚	瓦斯壊疽	血清	血清	防疫
白鼠	診断液（菌液）	防疫液	防疫液	血清
鼠	診断液（菌液）	防疫液	防疫液	防疫液
ツベルクリン				
一〇〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇
一〇〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇
一〇〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇
一〇〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇
一〇〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇
一〇〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇
一〇〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇
一〇〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇

(四) 家畜防疫技術員ノ養成

ロシヤ北支家畜防疫ノ實施ニ當フ人的工作ノ準備ニ就テハ日本側ノ協議ハ既ニ中央機關ニ於テ決定セラレタルモノトス

(五) 家畜指導班ニ関スル家畜防疫

防疫ノ徹底ヲ期スルモノトス

家畜防疫ノ促進上他ニ優先シ防疫上緊急ノ課題ヲ有スル地域（羊疫蔓延地、獣毒源ノ管及重傷等）ヲ行ヒ家畜ノ潰滅保護、改良増殖ノ為ノ指導班ヲ皆無ナラシムルカ如ク家畜防疫ノ徹底ヲ期スルモノトス

家畜指導班ノ設置ニ着手スル為北支興亜株式會社ハ中央機関ニ差遣スベキ家畜防疫技術員訓練部ノ設置ヲ北京大學ニ於ケル獣医畜産科ニ於ケル獣医技術員ノ養成教育ニ関シ可及的速ニ防疫ノ基礎的技術員ノ養成教育ニ俟チ差シ當リ之レヲ充足スルコトトシ可及的速ニ防疫ノ基礎的技術員ノ養成教育ニ関シ可

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/
研-0659

資産
昭和
十四年

昭和十四年五月二十五日

北支資産對策實施上留意スベキ事項

興亜院華北連絡部
經濟第二局
小林技師

研-0659

0147

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

一、目標ヲ先ツ事變前ノ狀態ニ置クコト

北支ニ於ケル畜産ノ振興助長、家畜ノ改良增殖ハ別紙對策案ニ基ク各種方策並施設ノ實施ヲ根源トシテ進展スヘキモ家畜ノ維持セラルヘキ農家ト家畜其ノモノトノ相互的關係ハ蒙旗地帶ニ於ケル畜牧狀態ノ其ト異ルニ依リ單ナル制度又ハ施設ノミヲ以テ之ヲ遂行シ得ルモノニ非ス

人口過剩ナル土地ニ於テ極メテ集約的ナ零細農業ヲ經營シ且ツ劣惡ナル農業的諸條件（水、土地、收奪農業）ニ制約セラル、現在ノ北支農村ノ收益經濟ニ於テハ最少限度ニ於テ必要トスル畜力ト肥料ノ點ヨリ見タル家畜ノ包含力（必要數）サヘモ或ハ人力ニ依リ或ハ無施肥ノ收奪農業ニ依リ次第ニ其ノ限度ヲ狹メラレ人ノ食料雖ハ次イテ家畜ノ飼料ノ缺乏ニ及ヒ家畜ノ減少ハ農業收益ノ減少ヘト輪過ノ道ヲ辿ル

斯ル狀態ニ於ケル農村ニ家畜ヲ維持セシメ更ニ副業的家畜飼育ノ餘裕アル狀態迄回復セシムルハ家畜飼育ノ根本的原因ト農家經濟ノ全般的相互關係ノ解決ニ俟ツニ非ラサレハ不可能ニシテ家畜ヲ持タセルノカ先カ農家經濟ノ總体的ナ條件ノ回復カ先カハ聊カ牽强附會ノ嫌ナキニ非ラサルモ鷄カ先カ卵カ先カノ論ト同一ナルヘシ

農業回復ハ家畜ノ維持ヲ容易ナラシメ家畜ノ回復ハ農業ヲ活潑ナラシムル因果關係ニ於テ家畜ハ之ヲ考慮スヘク家畜獨善ノ先行ハ徒ニ功ヲ急キ勞多クシテ功果尠キニ依リ北支ノ畜産ハ現狀ノ家畜ノ頭數或ハ家畜經營條件ニ於テ一先ツ其ノ目標ヲ事變前ノ狀態維持（事變前ノ狀態ニ對スル正確ナル對照ナキモ少クトモ現狀ニ比シ良好ト考ヘラル、狀態）ニ置キ漸次之ニ改善スルノ進ミ方ヲ適當ト認メラル

研-0659

0148

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

農業支出

種別	一〇畝以下	一一—二〇畝	二一—三〇畝	三一畝以上
家族員ノ勞働	一五・一	二八・〇	二九・一	二八・五
肥料	九・二	一五・三	一四・五	一五・〇
家畜ノ飼養	八・四	七・三	一一・八	一〇・〇
具物及修繕	七・〇	一一・〇	一三・五	一五・八
賃銀勞働	一四・五	一〇・七	五・五	八・〇
家畜家禽ノ購買	四・〇	三・七	四・七	五・〇
農具	三・四	四・六	四・九	四・六
種子	六・一	五・〇	四・三	四・三
租稅	五・二	四・〇	三・一	三・二
地方稅	一・四	一・六	一・一	一・二
家內工業	一六・四	一・八	—	一・四
其ノ他	二・九	六・六	八・八	六・〇
	一〇〇%	一〇〇%	一〇〇%	一〇〇%

二、家畜ノ維持ニ必要ナル飼料ハ速ニ之カ增產ヲ蠱ルコト

家畜ノ飼料ハ都會地附近ニ於ケル養鷄、養豚若クハ乳用牛又ハ特種畜產業、種畜供給業等ノ特別ノ事狀下ニ在ルモノヲ除キ農村ニ於テハ農家自體ノ生產物若クハ其ノ殘滓又ハ野草等ノ利用ニ俟タサル可カラス

然ルニ北支ニ於テハ膨大ナル人口ヲ擁シ之ニ必要トスル食料ハ永年ニ亘ル努力ニ依リテ開墾セラレタル耕地ノ農產收益ニ於テモ尙絕體的ニ不足ノ實狀ニアリ

サレハ農家ノ必要トスル勞役家畜ニ對シテハ土地、種子等ト共ニ勞力及肥料ノ供給源トシテノ不可缺的要素トシテ最少限度ニ於テ飼料ノ分配ヲ必要トス、斯ク最少限度ノ家畜ノ個體維持ニ轉用セラル、農民ノ食料テモアル所ノ濃厚飼料ハ今日ノ狀態ニ於テハ到底一朝一夕ニ其ノ增產ヲ期待シ得ラレス、又今後ニ於ケル商品作物（棉）等

研-0659
0149
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

ノ増殖計畫ニ在リテモ飼料ノ購買力増加モ期待薄ナリトスレハ家畜ハ現狀ニ於テハ最少限度ノ頭數カ個體ノ生命ヲ保ツニ過キスシテ生産育成ハ最悪ノ狀態ニ於テ行ハレ資質不良ニシテ個體ハ弱者獨存ノ爲メ頑健ニシテ野性的トナリ改良等ノ如キハ期シ得ラレス

サレハ農業條件ノ悪化スル毎ニ家畜ハ壓迫セラレ減少若クハ資質低下ヲ辿ルノ一途アルノミナリ

然シテ家畜飼料ノ主要部分ヲ占ムル粗飼料ノ供給源トシテ作物ノ葉、莖稈類ハ燃料不足ノ爲メニ前同様最少限度ヲ支給セラル、然シテ更ニ期待セラルヘキ野草ニ於テハ採草地トシテ墓地、未利用（然モ草生サヘ不良）ノ土地、山麓、河川等アルモ土地狹少ニシテ草量不充分ナリ、然シテ其ノ野草サヘ燃料トナルニ於テ如何センヤ

然レハ家畜ノ飼料ヲ何レニ求メントスルカト言フニ、農産飼料ハ既ニ利用ノ最大限度ヲ發揮シ居リ農産物ノ増産モ期待薄ノ狀況下ニ於テハ止ムナク殘レリ

前述ノ狹少ニシテ不良ナル未利用地、墓地、或ハ鐵道沿線等ニ期待スルヨリ外ニ道ナシ

此處ニ於テ飼料ト相剋關係ニアル燃料問題ノ急遽ナル解決ヲナスニ非ラサレハ北支家畜飼料問題、延イテハ畜産ノ發達ハ百年河清ヲ待ツニ等シカルヘシ、依ツテ前述ノ鐵道沿線、墓地、不良未耕地等ニ對スル方策ハ農用植林（防砂用）トシテ殊ニ成育早ク年々ノ伐採可能ニシテ葉ハ飼料トナリ得ルモノ、植樹ヲ奬勵スル外土地改善ヲ伴フルーサン等ノ緑植ニヨリ荒地ヲ緑化シ冬期飼料ノ保存ヲ可能豐富ナラシメ増殖改善ノ曙光ヲ先ツ此處ニ求ムルヲ適當トスヘシ

研-0659

0150

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

三、勞力ト肥料ト食料トノ關係ヨリ先ツ奬勵普及竝增殖スヘキ家畜、農業勞力トシテ牛、馬、驢、駱駝、肥料トシテ牛、馬、豚、鷄、衣食料トシテ牛、羊、豚、鷄ヲ考ヘル時其ノ各々ハ農業經營形態ニ應シテ最家ニ折込マル可キハ當然ナルモ馬、羊ノ如クコノ範疇ヲ稍々脱シテ他ノ方面ヨリノ要求ニ基キ改良增殖スヘキモノモアリ、然シテ農村經濟更生ノ觀點ヨリ考ヘル時ハ勞力ト肥料ヲ最大限ニ供給シ資本僅少ニシテ回轉收益ノ大ナルモノヲ最トスルハ論ナキ處ナリ、然レハ北支ニ於テ之ヲ總括的ニ言ヘハ驢ト豚ト鷄トヲ第一トス、然ルニ驢ノ增殖ハ馬ニ關係シ相剋ス

牛、馬、羊、豚、鷄ハ其ノ由ツテ來ル所或ハ宗教ニ或ハ農業事情ニ於テ各地ニ各々飼育セラルト雖モ豚ト鷄ハ支那人ノ嗜好或ハ需要ノ點、或ハ肥料ニ食料ニ收益ノ確實性ニ於テ將又奬勵ト普及ノ容易性ヲ有スル點ニ於テ最モ容易ニ實施奬勵シ得ルモノト信スルニヨリ、

研-0659

0151

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

先ツ豚、鶏ヨリ開始スル捷徑トス、尚同教徒ナル農民ニハ豚ノ飼養ハ宗教的ニ之ヲ嫌忌スルニ依リ必然的ニ牛、羊、鶏、馬ニ限局セラル此ノ點ニ付テハ特ニ別案羊毛生産力擴充計畫ニ於テ重要視スルノ要アリ、然シテ現狀ノ食肉不足及農村疲弊狀態ヨリシテ家畜ノ改良ハ勿論必要ナルモ、先ツ農村更生對策並現下軍需要食肉供給資源ノ恒久的供給基地培養ヲ考慮シ數ノ增加ニ努力スヘキモノト認メラル依ツテ其ノ奬勵普及並增殖ニ關シ預託、賃入斡施、資金ノ融通、貸付等急速ニ各地適應ノ手段ヲ講スヘキモノトス

四、適所ニ適種ノ家畜ヲ折込ミ增殖改良スヘキコト

何レノ國ノ畜産ニ於テモ同樣ナルモ各々ノ家畜ハ夫々ノ特徴ニ基キ適所ニ增殖シ改良サル、モノナリ、北支ニ於テモ例ヘハ山東省ノ牛、山西省ノ羊、河北省ノ豚、冀東ノ馬、魯南ノ豚、魯西ノ鶏等他ニ比較シ特ニ多ク尚又各小鄕村ニ於テモ農村ノ經營形態ニ基キ各々ノ特徴家畜ヲ保有ス

之レ卽チ要求家畜ト農家ノ經營狀態トハ特ニ高度化畜産經營ノ場合ヲ除キ常ニ唇齒輔車ノ關係ヲ有ス農家經濟ノ內容、土地、飼料、家畜及畜産物ノ取引狀況ハ更ニ飼養家畜ノ種別ノ決定ニ關連ヲ深ムルコト多ク其ノ據ツテ來ル處ヲ考ヘ徒ニ從來ノ舊套ヲ守ルノ要ハナク急激ナル變化ヲ避ケ普及奬勵スルヲ要ス然レトモ特ニ戰後農村家畜ノ內容甚シク變化シ農村更生ヲ要スル時ニ當リ且ツ又現時最モ要求ノ增大セル食肉供給源トシテ豚（回教徒ヲ除ク）、鶏等ノ奬勵ハ何レノ地方ニ於テモ之ヲ普及奬勵スルハ大過ナク適當ト認メラル、之レ卽チ回轉收益ノ早ク生産需要ノ關係比較的他ノ家畜ヨリモ容易ニ解決シ得ラル、ニ原因スヘシ

更ニ農村ノ從來飼育シ良ク收益ノ實ヲ擧ケツ、アリタル種類ノモノニ付テハ益々其ノ奬勵ヲ行フト共ニ他ニ之ヲ普及セシムルノ可能性ニ付考究ノ上實施スヘク特ニ軍駐在地ニ於ケル食肉資源ノ供給ト宣

研-0659

0152

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

撫並農村經濟更生トノ融合ニ付テハ各關係機關ノ連絡ニ頼ルノ外ナキニ依リ特ニ留意スヘキ事項トス

五、家畜ノ頭數維持並改良增殖上家畜防疫ノ重要ナルコト

粗放ナル飼養方法ニ依リ飼料不足シ個体維持ノ爲メニ肥盈ヽ改良等ノ手段ヲ加フル餘裕ナク且ツ各種疾病ヽ傳染病等常在スル劣悪條件ノ下ニ生育スル北支ノ家畜ハ勿論他ノ文化諸國ノ家畜ニ比シ或程度自然免疫下ニ强力ナル抵抗力ヲ有ストヽ雖モ傳染病ニ對スル諸施設全ク缺除セル今日ノ狀態ニ於テハ一度猛烈ナル病毒蔓延スル時ハ忽チニシテ其ノ慘害目ヲ覆フニ至ル可ク水害ヽ旱魃ト共ニ農村ヲ疲弊セシムル主要原因トナルヘシヽ即チ勞力家畜ハ其ノ價格比較的高ク資本ヲ要シ再ヒ購入スルニハ數年ノ蓄財ヲ要シ又ハ借金ノ負擔重加スルコトヽナリ小家畜ニ於テハ副業的收益ノ道ノ杜絶ノ爲農家ヲ一層窮地ニ追ヒ込マシムヽ然シテ北支ノ家畜ハ其ノ大部分ヲ蒙疆其ノ他西北地帶ニ仰キオル實狀ヨリシテ北支常在ノ傳染病ハ勿論各種各樣ノ傳染病ハ自由ニ外地ヨリ浸入シ來リ常ニ病毒ニ露出シ居ルヲ以テ之等陸入徑路ト家畜流動ノ狀況ヲ鮮明ナラシメ外部トノ防疫的連絡ヲ密ニスル外ヽ國内檢疫ヲ確實ニシテ慘害ヲ未然ニ防遏スルハ最少限度ニ於テ現在頭數維持ヲ可能ナラシメ更ニ增殖ノ效果ヲ大ニスル所以ナリヽ家畜ノ頭數增加ハ飼料資源ノ增産ヲ圖ルト共ニ防疫ノ徹底ニ勉ムルニ非ラサレハ實ヲ求メテ花ヲ切ルノ虞ヲ爲スニ等シカルヘシヽ然シテ現在防疫人員ノ不足シ血清類ノ製造及之カ補給極メテ困難ナル時期ニ當リテハ特ニ早期發見ニ努メ損害ヲ未然ニ防止スルヲ最モ緊要トスヽ之カ爲メニハ目下ノ實狀ヨリシテ家畜交易場ヽ屠宰場ノ機構整備ヽ現地産業指導員ノ家畜衛生知識ノ向上ニ俟ツヲ唯一ノ方法トシ漸次防疫ノ正道ニ入ルヨリ他ニ道ナシ

研-0659

0153

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

六、家畜交易ノ調整ニ就テ

北支ニ於テハ家畜ハ常ニ稅捐ノ對稱トナリ易ク其ノ取引ハ煩瑣ヲ極メ爲メニ移動ヲ制限シ流通、需給ノ道ヲ妨クルコト多ク又農家ノ家畜ニ依ル收益ヲ減少セシムルコト勘カラス、之カ爲メ家畜市場設置竝其ノ改正ヲ要求セラル、コトアルモ今直ニ近代的組織下ニ之ヲ統制スルハ困難ナルコト多カル可シ、依ツテ合作社ノ發達、屠宰場、畜産物交易場等側面的機構ノ整備ト舊來ノ商習慣ノ是正トニ相俟ツテ順次調整改良セラルヘク特ニ屠宰場附屬家畜市場ハ食肉專用トスヘク一般家畜ノ取引ハ從來ノ馬喰的取引ヲ廢止シテ適當ナル監督ノ下ニ之ヲ行ハシムルト共ニ稅捐ノ改正ヲ行ヒ農民ノ負擔ヲ輕減セシムル如ク指導スルヲ要ス、之カ爲メ特ニ公營又ハ私營市場等ノ何レヲ先ニスヘキヤ各地ノ事情ニヨリ異ルヘシト雖モ收益ニ重キヲ置キ却ツテ交易ノ障害トナルカ如キ結果ニ陷ラサル樣注意ヲ要ス

七、畜産物ノ誘致工作ト品質ノ向上

北支輸出貿易ノ大宗タル畜産物ハ從來北支輸出貿易額ノ四〇%前後ヲ占メタルモ蒙疆地帶ヨリ北支ニ移入シ來リ更ニ輸出セラレルモノ相當アリ且ツ該地ニ於ケル畜産物ハ同地方ノ輸出統制ニ基キ一應北支ノ圈內ヨリ之ヲ除キ考慮スルノ要アリ、サレハ將來北支自体ノ立場上ヨリ河北、山東、山西、河南ハ勿論之等ノ西南地區等奥地ヨリノ畜産物ヲ北支市場ニ參加セシムル如ク誘導スルニ非ラサレハ從前ノ繁榮ハ求メ得ヘカラス、奥地重要畜産物ノ誘致ヲナス爲メ延イテハ一般ノ取引ヲ圓滑ナラシムル爲メ金融、物資ノ流通ヲ計ルハ緊要ニシテ各種方面トノ相關的經濟問題ト關連シテ之ヲ指導スルハ今日ノ重要畜産物不足ノ實狀ヨリシテ喫緊ノ事項ナリトス

由來支那ニ於ケル畜産品ハ加工卵、カーペット及毛皮、革ノ一部ヲ除キ主トシテ原料ノ型ノ儘輸出サル、モノニシテコノ點ニ特徴ヲ有

研-0659

0154

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

ス、依ツテ將來之レカ世界市場ニ於ケル要求ニ基キ加工ノ技術ヲ修得ノ上直ニ北支ヨリ之カ供給ヲ計ルカ如キハ考慮ヲ要スヘク寧ロ工業過程ニ直ニ利用シ得ル如ク各種品質ニ基ク品目ノ整理、畜産物品ノ消毒、簡易ナル加工ノ奬勵等先ツ着手スヘキモノト思料ス、然レハ從來ト同一ノ物品ニ於テモ對外信用ノ向上、品質ノ改善ハ期待シ得ラルヘシ

八、家畜勞力ヲ何故必要トスルカ

土地膨大ナルモ各戸當リ耕地面積ハ極メテ貧弱ニシテ人口過剰シ人ノ勞力過分ニアリト考ヘラル、北支ニ於テ零細農業ヲ經營スル農村ノ家畜勞力ヲ如何ナル理由ノ下ニ斯ク言ハル、如ク大量ニ必要トスルカラ考ヘテ見ルニ先ツ婦人ノ勞働力カ日本ノソレト比較シ皆無ニ等シキ點テアル、棉ノ採取、野草ノ拔根、粟、小麥ノ脫穀等小勞働力ニ於テハ相當ノ助力ハアルモ內地婦人ノ如ク男子ト殆ント同樣又ハソレニ近キ激シキ勞働ヲナス者ハ極メテ少ク爲メニ日本內地婦人ノソレニ對シ支那婦人ノ農業勞働力ハ極メテ僅少ト思推セラル、此處ニ於テカ人口過剰ニシテ耕地面積少シト雖モ一定耕地面積ニ對スル一定ノ必要勞働力ハ不足シ男子一人當リノ勞力ノ必要量カ增大セラル、ニ至ルヲ以テ之ヲ家畜ニ求ムルモノト考ヘラル更ニ又農業勞働日數ノ短キ爲メニ農耕ヲナスヘキ期間ノ短縮セラル、點（播種、起耕、深耕、肥料運搬、灌漑、耕地ノ遠隔ナルコト、道路ノ不良、乾燥農業ニ依ル一時的ニ勞力ノ集中スル等勞力ノ偏頗ナルコト）ニ依テ一層前述ノ男子勞働力ハ過大トナリ然モ支那人ノ習性トシテ勞力ヲ他ヘ轉嫁セントスル習慣的依存性强キコトニヨリ農耕勞力ヲ必要以上ニ家畜ニ求メ其ノ利用（寧ロ亂用）ヲナシオルモノニ非スヤトモ思考セラル

サレハ勞力ノ普偏化ト實際ニ家畜勞力ヲ必要トスル量ニ就キ考究シ

研-0659

0155

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

勞力家畜ト更ニ肥料家畜並飼料トノ相互數的關係ヲ明確ニスレハ差シ當リ必要以上ノ勞力家畜ノ數的增加ハ求メナクトモ現狀ニ於テ農家經濟ノ更生ハ一部解決セラルヽモノト考ヘラルヘシ

九、畜產ノ實態ヲ知悉スルコト

以上各種記述シタル事項ニ就テモ同樣ナルモヽ北支ニ於ケル有畜農業經營ノ合理的指導ヲ行フ爲メニハ農業ニ折込マレタル家畜ノ實態ヲ明カニシテヨク其ノ據ル處ノ原因ヲ把握シ指導スルヲ要シ技術ノ亂用ニ依ツテ之ヲ過ツカ如キコト無キヲ期スヘシヽサレハ農家ト家畜トノ經濟的、農業的、習慣的、或ハ宗教的相互關係ヲ詳細ナラシムル爲メ隨時其ノ實態ヲ調査スル如ク努ムルヲ要ス

研-0659

0156

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

畜産
266
516

昭和十五年五月

北支ノ家畜防疫ニ對スル意見

興亞院華北連絡部

經濟第二局
小林技師

研-0659

0159

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

北支ノ家畜防疫ニ對スル意見

一、家畜ノ防疫ハ北支ノ實狀ニ鑑ミ生産擴充ノ方策トシテ且又總ユル畜産政策ノ遂行上根本的基礎條件ナルヲ以テ常ニ先ツ第一義的ニ考慮シ積極的ニ對策善處スヘキ問題ナルコト

北支ノ家畜カ北支ノ農業經營上不可缺ノモノテアルトモ不拘古來家畜ノ維持增殖ニ關シテハ飼料其ノ他各種ノ災害等ノ爲メ最モ不利ナル條件下ニ置レテ來タモノテアルコトハ縷説ヲ要シナイ。又農業經營ノ狀態ト家畜勞力ノ分配關係ヲ見テモ零細農業ノ階級ニ於テハ逆比例シテ不平均ヲ生シ貧農ニ於ケル家畜ノ所有ヲ困難ナラシメテ居ル。卽チ家畜ノ所有ハ比較的富農ノ部ニ屬シ貧農ニアリテハ概ネ家畜小作、賃借制度ニヨリ之ヲ求メ或ハ僅ニ小勞働家畜ニ限リ之ヲ飼育シ得ル程度ニ過キナイ斯クノ如キ狀況下ニ於テ若シ不慮ノ災害ニ依リ家畜ヲ斃スト云フカ如キ場合ハ其ノ損失ハ富農ノ其レニ比シテ遙カニ大ナル負擔トナリ其ノ損失ハ容易ニ恢復シ得ナイ狀態トナル。今次事變後ニ於テ戰禍、水害、旱害等ニ依リ減少セリト認メラルル家畜ノ增殖ハ最モ輿緊、焦眉ノ事項ナルヘク此ノ恢復策トシテ各種ノ增殖奬勵等行ハレツツアルカ單ニ家畜ヲ輸移入シ之カ增殖ヲ期セントスルノミニテハ容易ノ事テハナク所謂百年河濟ヲ俟ツノ類ニ等シク增殖ニ伴ツテ減耗防止策タル防疫ヲ沒却シテハ其ノ成果ヲ期スルコトハ出來ナイ。事變後日本人ノ手ヲ經テ行ハレタル家畜移入增殖ノ奬勵ニ於テモ家畜防疫ノ準備ヲ怠リタルカタメ其ノ大半ヲ失ヒタル事例モ尠クナイ。尙又各地ノ情報ヲ徵スルニ各種家畜傳染病ハ常ニ流行蔓延シ增殖實施上大障害ヲ爲シテ居ルノ狀況テアリ又一方家畜ノ飼養、營理保護、助長等ニ關シテハ國家的或ハ系統的指導管理ニ就テモ何等見ルヘキ施策ナク、從ツテ農家自衛ノ爲ニ施スヘキ手段ナキ狀態ニアリ畜産政策上考慮ヲ要スル所テアル。

斯クノ如キ現況下ニ於テ家畜ノ防疫業務ハ北支畜産ノ現狀維持ニ於テモ必須ナルノミナラス更ニ家畜ノ改良增殖ヲ企圖セントスル

研-0659

0158

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ニ方リテハ先ツ第一ニ着手企圖スヘキ對策テアルコトハ言ヲ俟タヌ所テアル。

二、防疫計畫ノ樹立並防疫ノ實施上血清並豫防液類ノ製造準備ハ火急的且喫緊ノ事項タルコト

簡單ナ言葉テアルカ彈丸カ無クテハ戰爭カ出來ナイト同樣血清、豫防液類ノ準備ナクシテ防疫ノ實施ハ困難テアル。勿論飼養管理ノ改善其ノ他一般普通衛生的諸事項ノ遵守ニ依リ消極的ナ抵抗力ノ增大ト言フコトハ認メラレルカ防遏ト言フ點ヨリ考慮スレハ血清豫防液ノ防禦陣ニ優ル鐵壁ハ無イノテアル。重要ナル家畜傳染病中診斷發見ノ方法カアツテモ未タソノ豫防方法無キモノ多々アルカ尠クトモ可能ナルモノニシテ之カ準備ヲ爲サナイト言フコト程防疫上拙劣ナコトハ無イ。

事變後ノ實狀ヨリ見テモ之ナクシテ惜ラ防遏ノ機會ヲ失シ多大ノ損害ヲ被リタル事例カ少クナイノハコノ間ノ消息ヲ如實ニ示スモノテアル。今日中央農事試驗場家畜防疫科ニ期待スルモノ大ナルモノアルノハ實ニコノ點ニ存スルモノアル故テ物的並人的要素ノ充實ニ付尙一層ノ努力ヽ考究ヲ要スルコトハ當然ト考ヘラレル。

尙又第四項記述ノ防疫ノ重點主義ニ基キ製造準備スヘキ血清豫防液類モ又自ラ決定シ得ラルル處テアツテ之ヲ例スレハ今日牛疫血清ノ如キ其ノ一滴ノ如何ニ貴キモノテアルカハ朝鮮、滿洲ノ製造能力及現地ニ於ケル緊急必需ノ現況ヨリ見テ明白テアル。

三、家畜ノ傳染病ニ對スル歷史的經過並現況ノ調査ヲ詳細明白ナラシメ置クコト

家畜ノ傳染病カ如何ナル地方ニ如何ナル狀況テ發生シ如何ナル方法ニ依リ流行蔓延シ如何ナル程度ノ損害ヲ生セシムルカヲ明カニシテ置クコトハ防疫ノ手段方法並其ノ豫防對策ノ決定ニ重大ナル關係カアル。之等ニ關シ北支ノ實狀ハ系統（行政）的ニモ人的ニモ又歷史的ニモ總テ不完全ト言フヨリモ寧ロ皆無ノ狀況テアツテ到底期待ノ萬分ヲモ得ラレナイ。從ツテ現在ノ各機關ヲ以テ出來

研-0659

0159

アジア歷史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

得ル限リ往時ノ狀況ヲ明白ニスルト共ニ平時ニ於ケル現地ノ調査報告ノ網ヲ細カクシ或ハ特別ノ調査ヲ行フ等其ノ實態ヲ究メ置クノ必要カアル。幸ニシテ今日各地ノ屠宰場、家畜市場、軍駐在地等ニハ專門家モアルニヨリ之等ノ連絡ヲ密ニスル外特ニ優秀ナル技術者ヲ以テ調査團ヲ組織シ一定長期間ノ調査ニ俟ツテ之カ解決ノ緒ヲ作ルノカ最モ賢明ナル防疫ノ基礎確立ノ方法ナラント考ヘラレル。各關係機關ハ極力調査ヲ繼續シテ防疫資料ノ蒐集ニ努ムル如ク切望スルモノテアル。

四、豫防制遏ハ重點主義ニ依リ現狀ニ卽シ實行スルコト

北支現下ノ治安狀況、防疫資材竝人材不足ノ狀況ヨリシテ防疫ハ重點集中的ニ行フ可キテアル。北支ニ發生シ若クハ發生蔓延ノ虞アリ被害影響ノ甚大ナルモノテ且ツ防疫手段ノ樹チ得ルモノヲ未然ニ或ハ萬一發生ニ際シテハ其ノ當初ニ於テ之ヲ絶滅スルカ如キ方法ヲ考慮シ之ニ全力ヲ注クヘキコトハ第一ノ要件テアリ且ツ捷徑テアル。北支獸疫中先ツ第一ニ擧クヘキハ牛疫ヲ其ノ最タルモノトセサルヲ得ヌ。卽チ本病ハ滿洲、蒙疆ニ常在シ其ノ流行蔓延ハ燎原ノ火ノ如ク一度長城ヲ超ヘテ北支ニ侵入センカ其ノ損害ノ莫大ニシテ被害ノ範圍ノ甚大ナルハ僅ニ傳ヘラルル處ノ從來ノ歷史ニ綏シ或ハ滿蒙ノ現實ニ徵シテ見テモ想像スルニ難クナイ。

勿論此ノ他豚コレラ、馬鼻疽、鷄ペスト、鷄コレラ、羊痘或ハ狂犬病等各家畜各々ノ重要ナル傳染病アルモ尙且ツ牛疫ハ北支ニ於テ筆頭ニ豫防制遏スヘキ傳染病テアルコトハ斷シ得ラレル。

五、北支ノ家畜防疫ハ北支四邊トノ共同防疫ニ付考慮スヘキコト

日本內地ノ如ク四邊海ニ圍レ家畜ノ輸移出入ニ就テハ比較的容易ニ監視シ得ラルル狀態ニアルモノニ比シ北支ハ四邊陸續キニテ各種家畜ノ往來頻繁且又各種傳染病ノ相互侵入ノ機會殊ニ多キ處ニ於テハ各自獨立的ノ家畜防疫對策ハ當ヲ得タルモノテハナイ、マシテ今日輸移出入家畜檢疫ノ制度ナク且又家畜ノ往來ハ對滿、對

研-0659

0160

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

蒙何レモ國内ト何等變化ナキ狀況ニテ行ハレ居ル現狀ニ於テハ殊ニ然リトスル、サレハ滿洲、蒙疆殊ニ蒙疆ニ對シテハ常ニ連繫シ主要ノ家畜傳染病殊ニ牛疫ノ如キ豫防制遏ニ就テハ北支、滿洲ノ發生流行ニ先タツ蒙疆ノ第一線的豫防制遏主義ヲ重ンシ協力スルノ要アルコトヲ忘レテハナラナイ。勿論今後對滿、對蒙ノ國境家畜防疫及輸移出入家畜檢疫制度ノ確立ニ依リ外部ニ對シテ北支防衛ノ實ヲ擧クルノ要アルハ當然ナルモ東亞協同體タル日、滿、蒙支ノ立場ヨリ見タル共同防疫ト言フコトハ又自カラヲ守ルノ手段ト言フ點カラ考ヘテモ重要ナ事項テアル。

六、傳染病ノ種類ニヨリ豫防制遏ノ實行ニ輕重、寛嚴ノ差アルヘキコト

北支ニ於ケル公衆衛生狀態サヘ不完全ナル今日家畜ノ防疫ノ如キ其ノ實行容易ナラサルハ首肯シ得ラルル處テアルカ其ノ必要性ニ付テハ縷説ノ通リテアル、然レハ之カ實行ニ際シ前各項敍述ノ如キ必要アルハ勿論ナルモ更ニ之カ具體的實行ニ際シテ採ルヘキ防疫手段ハ今日ノ狀態ニ於テハ徒ラニ技術的效果ノミヲ期待シテ行ハルヘキテ無ク其ノ重要性ニ依リ絶對敢行スヘキ手段ト或ハ寛ニナシ得ル點トノ區別カアル譯テアル。又農民ニ對スル場合ト家畜業者例ヘハ牛乳營業者ノ如キニ對スル場合トハ自然異リ又公衆衛生ト關係アルモノ例ヘハ狂犬病ノ如キモ其ノ趣ヲ異ニスヘシ。

又一般民衆殊ニ農民ニ對シテ行フ豫防制遏ノ實行ニモ亦絶對强制的ナルヘキモノト徐々ニ奬勵スヘキモノトノ差ヲ生スルノカ當然テアル。卽チ狂犬病ノ豫防注射ノ如キ牛疫罹病牛ノ殺處分、豚コレラ、炭疽ノ豫防液、血清等ノ强制注射ノ如キハ萬難ヲ排シテ實行セラルヘク氣腫疽、羊痘、鷄コレラ、鷄ペストノ如キハ漸次民衆ノ自覺ニ依リ前者ニ比シ寛ニ取扱ツテ可ナルヘキモノトカアル可キテアル。

七、北支ニ對シ內地、朝鮮、滿洲ハ人的資材的ニ應援スヘキコト

北支ニ於ケル各種ノ家畜傳染病カ滿洲、朝鮮、內地ノ其レニ比シ

研-0659
0161
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

病理細菌學的ニ同一テアツテモ血清學的ニ相當ノ差カ在リヤ否ヤ或ハ防疫學的ニ之ニ加フヘキ手段方法ニハ又特ニ異ル點モアリ研究スヘキ問題多々生スヘク之カ解決ハ一々優秀ナル技術者ノ力ニ俟ツノ外ハナイ、中國側獸醫技術者ニ對スル期待殆ント不可能ナル現況ニ於テハ自然各種機關ハ勿論中國人技術者ノ指導教育ニ從事スヘキ日本人ノ需要ハ愈々增加スヘク尙又之ニ伴フ資材ニ付テモ北支トシテハ內地、朝鮮、滿洲ノ應援ニ依ルノ外サイ、北支家畜防疫ノ根本問題トシテ出來得ル限リ積極的ノ應援ヲ期待スル所以テアルト共ニ北支ノ家畜防疫ノ現狀ニ對スル認識ヲ更ニ深メラルルコトヲ切望スルモノテアル。

研-0659

0162

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

書庫
271
626

農

興亜調査資料第五一號

昭和十六年六月

青島市ニ於ケル飼料資源調査ニ關スル報告書

興亜院華北連絡部青島出張所

技術部
16.1.2

研-0659

0163

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

例言

本資料ハ昭和十五年度本所調査計畫ニ基キ、青島特別市域内ニ於ケル一般家畜資料ノ單位生産量及品質等ノ事情ヲ明ニセンカ爲メ牲畜管理所今野忠吉氏ニ實態調査ヲ委囑シ、其ノ報告ヲ取纒メ收錄シタルモノナリ

研-0659

0164

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

青島市ニ於ケル飼料資源調査

目次

第一章　總論
第二章　各種飼料
第一節　麥秋
第二節　粟稈
第三節　甘藷ノ莖葉
第四節　大豆ノ莖葉
第五節　落花生ノ莖葉
第六節　其他ノ莖葉
第三章　結論
參考附表

第一章　總論

古來本地ニ於ケル農業ハ勞力ト肥料ヲ家畜ニ受ケ又家畜ハ農作物ノ藁稈、莖葉、穀皮等ヲ飼料トシテ利用シ其ノ關係實ニ農畜一體ニシテ決シテ分離ヲ許サス否寧ロ家畜ハ農業ハ農業構成上ノ重要要素ニシテ其ノ多寡ハ直チニ農作物ノ質量ヲ支配シ農作物ノ豐凶ハ家畜ノ飼養頭數ニ影響ヲ及ホスモノナリ

然ルニ近來戰禍ト凶作ニ災サレ管内ニ於ケル家畜著シク減少シ農業經營ヲシテ益々困難ナラシメ農村ノ疲弊困憊其ノ極ニ達シ家畜ノ飼料ヲ以テ食料ニ代ヘ辛ウシテ餓死ヲ免レントスル農民幾何ナルカヲ知ラス其ノ生活ノ窮乏實ニ深刻ニシテ名狀スヘクモアス

今ヤ家畜飼料ノ缺乏ト其ノ高騰ハ家畜ノ頭數ヲ減少セシメ其ノ增殖奬勵ハ單ニ畜產部門ノミノ問題ニ非スシテ實ニ農產物增產解決上ノ緊急事項トシテ農政上ノ一大問題ナリト稱スルモ敢テ過言ニ非ルヘシ

研-0659
0165
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

而シテ本地ニ於ケル家畜ハ殆ント自家生産ノ農作副生物ヲ以テ飼料トシ他ニ依存スルカ如キコトナキハ[illegible]トスルニ足ルヘク之ヲ破壊スルカ如キハ斷シテ許スヘカラストナスモ消極的ニシテ科學的ナラサル點甚タ多シ、須ラク之レカ實際資源ノ量質ヲ調査シ之レカ増産ト改良ノ方策ヲ企圖スルハ家畜ノ増産奬勵上ノ先解問題トス小職與亜院青島出張所ノ命ヲ受ケ昭和十五年九月ヨリ十二月ノ四ケ月間五回ニ亘リ管内ノ飼料資源ニ關スル調査ニ從事シ漸ク粗飼料ノ數量的調査ヲ終了シ茲ニ其ノ概要ヲ報告スルヲ得タリ、記載スル處治安及日時ノ關係等ニ依リ汎ク調査スルコトヲ得サリシ爲遺ササル點及計算ノ基礎農民ノ口述ニ依リ正確ヲ缺クカ如キ點往々ニシテ在ルハ元ヨリ免ルカラサル處ナルモ之レハ後日ノ再調ニ依リ訂正スルコトトシ茲ニ寛恕ヲ乞ハントス

本管内ニ於ケル家畜ノ飼料ハ少量ノ麩、大豆粕及落花生粕等ノ濃厚飼料ヲ除キ殆ント粗飼料ノ大部分ハ食料作物ノ藁稈、莖葉及稈皮等ニシテ之等副生物ノ量質如何ハ家畜ノ營養ヲ支配シ延ヒテ飼養頭數ノ増減ニ影響スルモノナリ

第二章　各種飼料

第一節　麥　秧

麥秧トハ小麥調製中麥稈上部ヨリ生シ二―四寸ニ細切壓碎セラレタル黄白色、光澤アル柔軟物質ニシテ甚食、反ニ適シ古來牛ノ主飼料トシテ汎ク使用セラル、由來山東省ニ於ケル小麥作ハ全耕地ノ約五〇%ト稱セラレ其ノ稈根ハ飼料ニ屋根ニ壁ツタニ燃料ニ其ノ用途甚タ廣ク特ニ畜牛トノ關係ニ至リテハ其ノ飼養密度ハ麥作ノ面積ニ比例スルトシ牛ノ頭數統計ヲ小麥ノ作付面積ヨリ推算シタルモノサヘアリト聞ク其ノ正確ノ信ヲ那邊迄置キ得ルカハ之ヲ暫ク措クトスルモ其ノ多寡及厳、不厳ノ畜牛經濟ニ及ス影響ノ大ナルモノアルハ想像ニ難カラス

研-0659

0166

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

麥秧ハ前述ノ如ク小麥ノ調製中ニ生産スルモノナルヲ以テ之レカ生産狀況ハ小麥ノ調製法ノ説明ニヨリ明解スヘキヲ以テ左ニ之ヲ述ヘントス

小麥ノ收穫期ハ六月上旬ヨリ中旬ニシテ何レモ根ヨリ拔キ採リ足ニテ土ヲ落シ二ー四貫ノ束トシ秤或ハ一輪車又ハ牛、馬車ニテ自家ノ庭前ニ運ビ爲ノ上部一尺ー一尺四寸位ノ處ヨリ押切ニテ切斷シ日ニテ乾シ平ニスタル庭ニ積ケ馬ノ上ヲ人力又ハ驢ニテ碌碡（石製四ツ）ヲ廻轉シ脫粒ス麥秧トハ此ノ際生シタル壓碎麥稈ヲ謂フ

脫粒後モ尚ホ稈ニテ主ナル麥秧ヲ除キ種實ハ稃皮及幾リノ麥秧ト共ニ木鍬（木製ノ鍬ナリ）ニテ高ク投ケ飛ハシ風選ス

下部ノ稈ハ根元ヨリ二尺二ー三寸ノ長サニ切斷シテ屋根ノ茸料トシ根部ヲ燃料トス

尚捲子（鍛鐵ヲハ藺草等ノ腐蓋）又ハ、細工用トナスモノハ此ノ方法ニ依ラスシテ先ツ根元ヨリ切リ次ニ穗ヲ倒ニシテ揃ヘ稈ヲ傷メサル樣運枷又ハ手ニテ脫粒ス

斯クシテ生産セラレタル麥秧ハ普通庭前ニ堆積シ捲子ニテ覆ヒ拂ホトナシ貯藏シ牛ノ飼料トシ又ハ販賣ニ供ス

給與ハ普通其ノ儘又ハ之レニ甘藷蔓、豆カラ等ヲ混シ一日八斤ー十二斤位ヲ二ー三回ニ分與シ勞働又ハ肥育時等ニハ藪又ハ豆粕等ヲ混ンスルヲ一般トス

麥秧ハ前述ノ如ク小麥稈上部ノ壓碎セラレタルモノナルヲ以テ其ノ收量ハ分蘖ノ多寡、成長ノ良否等大イニ作柄ニ支配セラルルハ勿論ナルモ稈ノ高長ナルモノハ中部ヲ屋根材等ニ利用セラレテ制限ヲ受ケ却ツテ麥秧ノ部分的比率ヲ減セラレ殊ニ二尺五、六寸程度ノ中位ノモノハ其レ以下ノ低稈ノモノト殆ント差ナキコトサヘアリテ其ノ收量ノ差甚シク大ナラス、然シテ其ノ生産量ハ麥稈ニ對シテ上、中、下共各々二

研-0659

0167

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

○%（第一表）麥稈ハ又其ノ種實收穫量ノ約一八〇%（第二、三表）乃至二〇〇%（第四表）ト推定シ第四表ノ稈及種實ノ實測量中畝當平均一八五斤ヲ基礎トシ之ヲ計算スレハ前者ニ於テ六六斤餘、後者ニ於テ七四斤トナリ地方人言フ處ノ大凡平均七〇斤ニ近似ス

第一表　麥稈ト麥秧ノ重量關係（一株）

地名	作柄	麥稈	麥秧	同上比	麥稈	麥秧	同上比	麥稈	麥秧	同上比	摘要
		上			中			下			
浮山所		二六〇匁	一五四匁	一四〇%	二一〇匁	一四〇匁	一五〇%	二一〇匁	一四〇匁	一五〇%	下等ノ半數ハ麥秧以外ニ用ヒラルモノト推定ス
藍村		一三五匁	二三〇匁	一七〇	二二五匁	一七〇	一	二七五匁	二四匁	一	
禮子底		一七〇匁	四〇匁	九五	二三五匁	一七〇	六二	二七五匁	二四匁	一	
麥秧ノ推定率											
		二〇〇	二〇〇		二〇〇	二〇〇		二〇〇	二〇〇		

第二表　種實ト其ノ皮、麥稈及麥稈ノ重量比其ノ一（二米平方一樓子底）

等級	品種	種實	稈	皮	麥稈	麥秧
上	重	一二五〇匁	三三〇匁	三八四〇匁	六七〇匁	
	%	一〇〇	二六四	二二七二	五三六	
中	重	一〇〇〇	二四〇	二一七〇	四五〇	
	%	八〇〇	一二〇〇	一七四六	三六〇	
下	重	一〇〇〇	一〇〇〇	一四六三	二四〇	
	%	四四〇	一〇〇	六四〇	一四五	
平均	重	一〇〇〇	二二二	一八六七	四六六	
	%	八三〇	一二七	一五五〇	三八四	

第三表　種實ト其ノ稈皮、麥稈及麥秧ノ重量比其ノ二（二米平方一滄口）

等級	品種	種實	稈	皮	麥稈	麥秧
上	重	二五八〇匁	三九〇匁	四八九〇匁	一〇三〇匁	
	%	一〇〇〇	一五一	一八九五	四〇八	
中	重	二〇〇〇	二一〇〇	二七〇〇	四七〇〇	
	%	一〇〇〇	一〇五〇	一三五〇	二三五〇	
下	重	一〇〇〇	一〇〇〇	一四六〇	二四〇〇	
	%	一〇〇〇	一〇〇〇	一四五〇	二四〇〇	
平級	重	一八四〇	二二〇	二八九〇	五二〇	
	%	一〇〇〇	一九五	一七六二	三八四	

研-0659

0168

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

第四表　小麥試刈成績

地名	品種名	栽培法 畦巾	株間	全收量 稈	子實	全收量100ニ對スル比 芒	稈	子實	一中畝當收穫量（老斤） 芒	稈	子實	一立重 芒	稈	子實	一粒重 芒	稈	子實
滄口	大紅芒	三五	條播	八四八〇	五四四〇	三三八〇	六六〇	六四一	二八一	七八	〇七〇二	〇七〇二	〇七〇二	〇七〇二	〇七〇二	〇七〇二	〇七〇二
城陽	同	三〇	條播	五三六〇	三七八〇	一一八〇	四〇〇	三〇〇	一〇〇	七八	〇七二九	四五七三	一三二三	一三二三	一三二三	一三二三	一三二三
藍村	有芒種	四〇	五〇	四〇〇〇	二六一〇	一〇八〇	三〇〇	六〇〇	二七〇	八〇	〇七二九	二九二六	一二〇二	一二〇二	一二〇二	一二〇二	一二〇二
樓子底	無芒紅稍	四四	五〇	四〇〇〇	二二一〇	一三四〇	四四〇	三四〇	二四九	三〇	〇六七五	一七八一	一四九二	一四九二	一四九二	一四九二	一四九二
柳圈	同	二〇	六〇	三五三六	二二一六	八八〇	三四〇	六五五	二八七	九六	〇七二九	二五七一	九七九	九七九	九七九	九七九	九七九
栗行村	洋麥	三〇	四〇	六四〇〇	四〇〇〇	一八四〇	五六〇	六一五	二八七	八八	〇七〇二	二八七一	二〇四〇	二〇四〇	二〇四〇	二〇四〇	二〇四〇
大張村	同	三〇	條播	八五六〇	五一四〇	二九八〇	八四〇	五七二	三三二	九四	〇七〇二	五七二二	三三一七	三三一七	三三一七	三三一七	三三一七
平均				五七六二	三六四五	一六六八	五〇六	六三三	二九〇	八八		三七八四	一八五六	一八五六	一八五六	一八五六	一八五六

第二節　粟稈（穀草）

粟稈ハ管内ニ於ケル馬、騾及驢ノ主要飼料ニシテ普通長サ一米前後ノ乾燥セル黄白色ノ莖葉ナリ

粟ハ前秋ノ甘藷又ハ大豆等ノ後作トシテ翌春陰歴三月十五日ー二十五日頃播種シ同七月十日ー二十日頃收穫スルモノニシテ先ツ穗ヲ切取シ次ニ莖根ヲ拔キ取リ根ヲ切斷シ乾燥後庭前ニ堆積シ隨時之ヲ飼料又ハ販賣ニ供ス

給與ハ普通押切ヲ以テ一寸ー一寸五分位ニ切斷シ一般ニ水ヲ以テ濕ホシ單味或ハ他ノ粗飼料又ハ少量ノ麩、大豆（煮沸）等ヲ混合シテ用フ

其ノ收量ハ品種及作柄ノ良否等ニ支配セラルルハ勿論生育期及熟期カ初夏ヨリ初秋ニ亘ル關係上風雨ノ災害ヲ被ル事多ク此ノ期ニ於ケル天候ノ如何カ其ノ種實ノ收量ニ影響スル處甚タシト雖モ飼料部分タル莖葉ノ收量ハ種實ノ其レニ比シ左程ノ差異ヲ示ササルモノノ如シ、然シ

研-0659
0169
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

テ粟稈ノ收穫量ハ第五表及第六表ヨリ見テ種實量ノ二倍半ー三倍トナルモ實際飼料トナリ得ルモノハ約二倍ト見ルヲ至當トスベク從ツテ一畝ヨリ收穫スル粟稈飼料ハ總、卸南縣平均種實收穫量一畝約二百斤ノ二倍卽チ約四百斤ト見テ大差ナカルベシ

第五表

粟收量調査（八月二十三日於滄口）

調査面積	品種	作柄	畦數	株數	幹高	穗數	穗長	重量
二米平方	黄穀	上	七條	二九株	二米二四	一八六本	一五糎	四〇一〇瓦
同	刀把穀	甲	六條	二三株	〇米九五	一一七〃	一七糎	二六三〇〃

第六表

同各部重量ト其ノ比率（八月二十七日於滄口）

調査面積	品種	作柄	種實	稈	穗	脫穀穗	幹	重量及其ノ種實ニ對スル百分率
二米平方	黄穀	上	一〇〇〇瓩（一〇〇%）	〇米八〇〇瓩（九四%）	〇米八〇〇瓩	〇米一〇〇瓩	二五八〇瓩	三〇三五瓩（二八八〇〇〇瓩（一五四八老斤）
一畝中（換算）			二二三一〇〇瓩（三九二老斤）	二三二〇〇瓩	一一三瓩	一五三瓩	二五四〇瓩	三四二〇〇瓩
二米平方	刀把穀	中	一〇〇〇瓩（一〇〇%）	〇米二一〇瓩	〇米二一〇瓩	〇米九五瓩	一五七五瓩	二六三〇瓩（九四五老斤）
一畝中（換算）			三〇六〇〇〇瓩（五一〇老斤）	二八八〇〇〇	〇〇七〇〇	〇〇九五〇	一五七五〇	二六三〇〇〇

研-0659

0170

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

第三節　甘藷ノ莖葉

甘藷ハ管内農民ノ主要食物ニシテ普ク栽培セラレ其ノ莖葉ハ牛、豚ノ飼料トシテ一般ニ使用セラル

莖葉ハ收穫直前根部ヨリ切斷シ地上ニ掛ケ又ハ土壁ニ掛ケ乾燥後葉ト莖トニ分ケ葉ハ袋等ニ入レ莖ハ庭前ニ堆積シ隨時飼料トシテ供用又ハ販賣ス

莖ハ三ー五寸ニ切斷シ單味ニテ干燥ノ儘又ハ一寸ー一寸五分位ニ細斷シ他ノ粗飼料又ハ糠類ト水ニテ煮ホシ牛ニ給與シ葉ハコレヲ長時間（三ー五日）水ニ浸シ豆粕又ハ糠類等ヲ混セ合セ豚ニ與フ

尙農民ハ其ノ生葉ヲ煮テ食用トスルモ特ニ本年ハ一般凶作ハタメ食物ニ窮シ其ノ生、乾ノ區別ナク之ヲ食スル者甚タ多ク豚ノ飼養頭數減少ノ一大原因ヲ爲シツツアリ

其ノ收穫量ハ生莖葉ニテ甘藷ノ約三八%（第七表）乾莖葉ハ其ノ二九%（第八表）ニシテ一畝當リ乾莖葉三百二十斤（第八表）ヨリ推算シ莖約二百五十斤、葉約五十斤ト推定ス

第七表

甘藷莖葉收穫調査

地名		栽培法（種）	一アール收量（瓩）			一中畝收量（老斤）		
		畦巾	株間	生莖葉	藷	生莖葉	藷	生莖葉ノ藷ニ對スル百分率
膠縣行上店		一〇〇	六〇	五八四	一二四八	一、四〇二	四〇三二	三四七七%
同	泉頭村	七八	六〇	三七三	一一〇〇	八九五	二、六四〇	三三九〇
即墨縣八里庄		八〇	六〇	三五四	五八四	八五〇	一、四〇二	六〇六三
同	張家庄	八五	六〇	五〇九	八八二	一、二二二	二、一〇七	五八〇〇
平均				四五五	九五四	一〇九二	二、八四五	三八三七

備考

藷ノ收量ハ大、中、小全部ノ秤量ニシテ普通謂フ處ノ收量ハ之ノ約六割位ニ相當スルモノト推定ス

研-0659

0171

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

第八表

乾燥莖葉一畝當收穫量

平均一畝當生莖葉量	乾燥仕上ノ率	平均一畝當乾燥莖葉量
一、〇九二、老斤	二九、三％	三二〇、〇老斤

備考

(1)平均一畝當生莖葉量ハ第七表平均量ニ依ル

(2)乾燥仕上ノ率ハ滄口永順農場調査左表ニ依ル

生莖葉	同上乾燥量	乾燥仕上ノ率
二、八〇〇匁	〇、八二〇匁	二九、三％

第四節　大豆ノ莖葉

大豆ハ一般食料トシテ又製油原料トシテ甘藷ト共ニ主ニ小麥後作ニ栽培セラレ其ノ莖葉ハ家畜ノ飼料及燃料ニ供セラル

大豆ノ收穫ハ落葉時根部ヨリ刈取リ之ヲ乾燥シ脫穀、調製スルモノニシテ葉ハ刈リ取リ後直チニ之ヲ熊手ニテ驅キ集メ豆葉ト稱シ脫穀ノ際生スル細枝及莢ノ混合セルモノヲ俗ニアツサト稱シ何レモ主トシテ牛馬騾驢等ノ飼料トナシ莖ノ下部及大枝ハ之ヲ豆稭ト稱シ燃料ニ供セラル

豆葉ハ大體屋內ニ貯藏セラルルモアツサハ庭前ニ堆積トナシ捲子ニテ覆フ、給與ハ普通單味又ハ麥秧其他ノ粗飼料ニ混シ或ハ甘藷莖等ト共ニ切リ込ミ其ノ儘又ハ水ニテ潤ホシ他ノ粗飼料同樣處理ス

其ノ收量ノ增減ハ旱害及虫害等莖葉ニ直接關係アル障害ノ伴ハサル限リ種實ノ豐凶程銳敏ナラサルモノノ如ク然シテ其ノ一畝當ノ收量ニ付テハ調査時季ノ關係ニテ坪刈調査不可能ナリシ爲其ノ基礎的數字ヲ揭ケ得サルヲ遺憾トスルモ土民ノ信ズヘシト思ハルル者ニ付聽取セル左ノ調査表ニ依レハ飼料トナルヘキ豆葉及アツサノ收量ハ大體各約七〇

研-0659

0172

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

斤、燃料部分タル豆楷ハ其ノ約二倍ト見テ差支ナカルヘシ

第九表　大豆莖葉收量調査（老斤）

地名	豆葉	アツサ	豆楷	計
郎墨一區	五〇	八〇	八〇	二一〇
張家莊	一〇〇	五〇	一五〇	三〇〇
八里莊	七〇	一〇〇	二〇〇	三七〇
大荒莊	一〇〇	一〇〇	二〇〇	四〇〇
王哥莊	七三〇	三〇	一〇〇	一六〇
平均	七〇	七二	一四六	二八八

第五節　落花生ノ莖葉

落花生ハ食品トシ又製油原料トシテ主ニ膠縣ノ東、南方ニ栽培セラル特殊作物ニシテ其ノ莖葉ハ牛又ハ驢等ノ飼料ニ供セラル

落花生ハ莖ノ儘拔キ取リ根ヨリ種實ヲモキ取リ其ノ莖葉ハ之レヲ乾燥シ飼料トシテ貯藏シ根ハ燃料ニ供ス

貯藏及給與法等ハ大體前述他ノ粗飼料ト大差ナシ

其ノ收量ハ左ノ調査表ニ依リ種實量ト略々同量ニシテ……根部ノ切斷及其他ノ損耗ヲ差シ引キ……其ノ飼料部分ハ一畝當リ農民云フ所ノ二〇〇―三〇〇斤、平均約二五〇斤ト見テ然ルヘキモノト推定ス

第十表　落花生收穫量調査（行上店附近）

區分	收量	生	乾燥	乾燥仕上率	一アール（換算量）生	乾燥	一中畝當（換算）生	乾燥
種	量	二三〇匁	一二六匁	五四八%	七七貫	四二貫	六九〇老斤	三七八老斤
莖	葉	四七五匁	一三五匁	二八四%	一五八貫	四五貫	一四二六老斤	四〇五老斤
莖葉ノ種實ニ對スル百分率		二〇六%	一二二%		同上		同上	

研-0659
0173
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

第六節　其他ノ莖葉

前節述ヘタル莖葉ノ他ニ家畜ノ飼料トナルベキモノニ高粱、玉蜀黍、稗、黍等アリテ其ノ乾葉ハ各一畝當リ五〇斤ー六〇斤ヲ收穫シ得ベキモ其ノ栽培甚タ少ナク多クハ燃料ニ供ス、只高粱葉ハ其ノ莖カ莚加工其他諸種ノ用途ニ利用セラルル爲ヨク剝キ取ラルル關係上從來之ヲ牛驢等ノ飼料ニ供セラル

第三章　結論

本管内家畜ノ粗飼料ハ夏季ニ於テ少量然カモ貧弱ナル生草ヲ與フル外ハ前章述ヘタルカ如ク殆ント全部食用作物ノ莖葉ナルカ故ニ是等各種ノ一ケ年ニ於ケル收量ノ精確ナル數字ハ家畜ノ飼養可能頭數ヲ定ムル上ニ於テ最モ重要ナル根底ナルモ未タ曾テ之レニ關シ調査セルモノアルヲ聞カス、幸ヒ本調査ニ依リ各種家畜ノ飼料ト其ノ給與日量及本年度ニ於ケル一畝當ノ大體標準收量ヲ得タルヲ以テ第十一、十二及十三表ニ示ス如ク之レヲ各々ノ作付面積ニ從ヒ計算スレハ全管内ニ於ケル家畜ノ飼養可能頭數ハ牛約拾萬頭、馬騾驢約七萬頭、豚約五萬頭ト推定スルヲ得ヘク而シテ之レヲ各區別ニ示セハ即チ左ノ如シ

家畜	舊市區	即墨區	膠縣區	計
牛	五八五〇	四一二〇七	五三八六〇	一〇〇九一七
馬騾驢	二六一六	二九四一七	三八一八三	七〇二一六
豚	九七六〇	二二一一三	二〇七五六	五二六二九

第十一表

地區	農作種類	作付面積（市畝）	飼料名	一畝收量（老斤）	總收量（老斤）	同上ヲ飼料トスル家畜	同上飼料日量（老斤）	一ケ年飼養可能頭數
舊	小麥	五二六一二	麥秧	三二	一六八三五八四	牛	一〇	四六一
	粟	四九六四五	穀草	一八五	九一八四三二五	騾、驢、驢	一〇	二五一六
	甘藷	一五四八八五	地瓜蔓	一一六	一七九六六六〇	牛	一〇	四九二二
			地瓜葉	二三	三五六二五五	豚	一	九七六〇

研-0659

0194

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

第十二表

區地	農作種類	作付面積（中畝）	副料名	一畝收量（老斤）	總收量（老斤）	同上ルヲ家畜飼料	同上料日量（老斤）	一ヶ年可能頭數
卽墨區	小麥	三四三六四〇	麥稃	七〇	二四〇五四八〇〇	牛	一〇	六五九〇
	粟	一九九四六〇	穀草	四〇〇	七九七八四〇〇〇	馬、騾、驢	一〇	二一八五八
	甘藷	三三二八七三	地瓜蔓	二五〇	七〇七一八〇〇〇	牛	一〇	一九三四八
			地瓜	五〇	一六一四三六〇〇	豚	二	三二一一三
	大豆	三三九三五〇	豆葉	七〇	二三〇五〇三〇〇	牛	一〇	三一五七
						馬、騾、驢	一〇	三一五七
			アツサ	七〇	二三〇五〇三〇〇	牛	一〇	三一五七
						馬、騾、驢	一〇	三一五七
	落花生	一一三五六七	花生蔓	二五〇	二八一四一七五〇	牛	一〇	七七一〇
	高粱	一五一五〇〇	高粱葉	六〇	九〇九〇〇〇	牛	一〇	一三四五
						馬、騾、驢	一〇	一三四五
	計					牛		四一三〇七
						馬、騾、驢		三九四一七
						豚		二一一三

區市								
	大豆	六四四	豆葉	三二	三〇八〇八	牛	一〇	四二
						馬、騾、驢	一〇	四二
			アツサ	三二	三〇八〇八	牛	一〇	四二
						馬、騾、驢	一〇	四二
	落花生	一一五七〇	花生蔓	一一六	一三四一一三〇	牛	一〇	四六七
	高粱	三九三一	高粱葉	二八	一一〇〇六八	牛	一〇	一六
						馬、騾、驢	一〇	一六
	計					牛		二五〇
						馬、騾、驢		二六一六
						豚		六七六〇

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

研-0659

第十三表

區地	農產作物種類	作付面積（中畝）	飼料名	一日收量（老斤）	總收量（老斤）	同上ヲ飼ハル家畜名	同上飼料日量（老斤）	一ヶ年可能飼養頭數
縣廳	小麥	三〇〇〇	麥秋	七〇	三六四〇〇〇	牛	一〇	六九七三
	粟	二六〇〇〇	穀草	四〇〇	一〇六〇〇〇〇〇	馬、騾、驢	一〇	二六〇四一
	甘藷	二二七二九	地瓜藤	二五〇	五六八一九五〇	牛	一〇	一五五六七
			地瓜葉	五〇	三七八七九八三	豚	一、五	二〇七五六
	大豆	四三〇〇〇	豆葉	七〇	三〇一〇〇〇〇	牛	一〇	四二三
						馬、騾、驢	一〇	四一二三
			アツサ	七〇	三〇一〇〇〇〇	牛	一〇	四一二三
						馬、騾、驢	一〇	四一二三
	落花生	二八〇〇〇	花生蔓	二五〇	七〇〇〇〇〇〇	牛	一〇	一九一七八
	高粱	一〇九〇〇〇	高粱葉	六〇	六三四〇〇〇	牛	一〇	八九六
						馬、騾、驢	一〇	八九六
	計					牛		三二八六〇
						馬、騾、驢		三六一八三
						豚		二〇七五六

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/
研-0659

研-0659

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

附表一

舊寄島市區農作物調査表（二十九年十月調）

種類	面積	收量（預想）	一畝當收量
小麥	五二六一二市畝	三五七八七三二〇市斤	一一〇市斤
大麥	二八八	二七九三六	九七
高粱	三九三一	四七一七二〇	一二〇
粟	四九六四五	六九五〇三〇〇	一四〇
大豆	九六四四	一〇一一六二〇	一〇五
甘藷	一五四八八五	二二三九〇八〇〇〇	八〇〇
落花生	一一五七〇	一六一九八〇〇	一四〇
玉蜀黍	二四九三	二四九三〇〇	一〇〇
黍子	二三二五	二五五七五〇	一一〇

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

研-0659

附表二

卽墨縣農作物調査表（二十八年度）

種類	面積	收量	畝當收量
小麥	三四三六畝〇	五一五四六〇〇〇斤	一五〇〇斤
大麥	二三二	三七一二〇	一六〇〇
大豆	三二九二九〇	一一六三五九〇〇	三五三
玉蜀黍	一二一〇	三九二四四	三二四
黍	一二〇〇	三六〇〇〇	三〇〇
高粱	一五一五〇〇	九九三八〇〇〇	六五六
粟	一九九四六〇	三五五四二八〇〇	一七八二
甘藷	三二二八七二	二四四二三二〇〇〇	七五六四
落花生	一一二五六七	二二五一三四〇〇	二〇〇〇

附表三

膠縣農作物調査表（二十八年度）

種類	面積	收量	畝當收量
落花生	二八〇〇〇畝	八九六〇〇〇〇斤	三二〇斤
小麥	五二〇〇〇	一一六四八〇〇〇	二二四
甘藷	二二七二七九	三三四九九〇六〇〇	一七七四
豆子	四三〇〇〇〇	三二二五〇〇〇	七五
包米	四二〇〇〇	三一五〇〇〇	七五
高粱	一〇九〇〇〇	一三〇八〇〇〇	一二〇
煙草	一二六八	三〇四三二〇	二四〇
粟	一〇〇〇	一六二〇〇〇	一六二
大麥	六七〇〇〇	一〇〇五〇〇〇	一五〇
粟	二六五〇〇〇	六一三二〇〇〇	二三一

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

研-0659

附表四

飼料收量狀況（即墨一區）

種類	用途	收量（中畝）老斤	價格 百老斤 圓	備考
麥秧（麥稈上部）壁蒿	牛飼料	七〇	七〇〇	麥稈全量三〇〇斤
穀稭草（粟稈）	馬、驢、騾飼料	三〇〇	四〇〇	
高粱葉	牛飼料	四〇	賣買ナシ	
玉蜀黍葉	同	四〇	同	
地瓜蔓	同	一〇〇	七〇〇	藷七〇〇斤—一、〇〇〇斤
地瓜葉	豚飼料	五〇—六〇	四〇〇	一袋（五〇—六〇斤）二圓
アツサ（豆ノ枝莢）	牛飼料	八〇	四〇〇	

附表五

飼料收量狀況（即墨五區）

種類	用途	收量（中畝）市斤	價格（百市斤）圓	備考
麥秧（麥稈上部）	牛飼料 壁ツタ	一〇〇	八〇〇	麥稈全量四〇〇斤
穀稭（粟稈）	驢、騾飼料	五〇〇	六〇〇	收量上七〇〇斤下三〇〇斤燃料ニ用ヒス
高粱葉	牛、騾、驢飼料	五〇	賣買ナシ	
玉蜀黍葉	同	不詳	同	飼料トスルコト甚タ少ナク多ク燃料トナス
落花生莖葉	牛飼料及燃料	二〇〇	同	飼料約百二十斤位
地瓜蔓（甘藷蔓）	牛飼料	二五〇	四〇〇	收量上三〇〇斤下二〇〇斤
地瓜葉（甘藷葉）	豚飼料 人ノ食料	一〇〇	六〇〇	一袋（五〇斤）三圓

研-0659

0180

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

大豆葉	牛飼料	五〇	賣買ナシ	
アツサ（豆ノ枝莢）	同	二〇〇	四〇〇	普通地爪蔓ト共ニ切リ込ミ賣買ス

附表六

飼料收量狀況（膠縣一區）

種類	用途	收量（中畝）	價格（百老斤）	備考
麥稃（麥稈上部）	牛飼料 壁ツタ	五〇老斤	七〇〇	麥稈全量二〇〇斤
穀草（粟稈）	馬、騾、驢飼料	三〇〇	四〇〇	內飼料七割位
高粱葉	牛騾驢馬飼料	五〇	賣買ナシ	稈四百斤位
玉蜀黍葉	同	五〇	同	同
落花生莖葉	牛飼料及燃料	二〇〇	同	飼料約百二十斤位
地爪蔓（甘藷蔓）	牛飼料	一五〇		
地爪葉（甘藷葉）	豚飼料 人ノ食料	五〇 大〇		
大豆葉	牛飼料及燃料	五〇	賣買ナシ	莖葉ハ大部分燃料

研-0659

0181

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

附表七

飼料收量狀況（膠縣四區）

種類	用途	收量（中畝）	價格（百斤）	備考
黍秋（黍稈上部）	牛飼料	二三〇〇斤 六〇	六〇〇 四〇〇	黍稈全量二〇〇斤 黍秋ノ一部ヲ壁ツタニ用フ
穀草（粟稈）	馬、騾、驢飼料	三〇〇	六〇〇	全部飼料トシ燃料トモス
高粱葉	牛及其他ノ飼料	四〇〇 三〇〇	置買ナシ	玉蜀黍莖葉ハ全部燃料トス
落花生莖葉	牛飼料	二〇〇	同	全部牛ノ飼料トス
地瓜蔓（甘藷蔓）	牛飼料	一八〇 二〇〇	三〇〇 六〇〇	
地瓜葉（甘藷蔓）	豚飼料	三〇 六〇	一袋〇〇	一袋約二十斤 凶年ニ於テ一部食料ニ供セラル
大豆葉	燃料 牛飼料	一〇〇	置買ナシ	莢、莢ハ大部分燃料トス

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/
研-0659

産業
669
617

極秘

昭和十六年五月廿日
調査所調査資料第一三二號（經濟二一號）

華北骨粉工業立地條件調査報告書

與亞院華北連絡部

技術部
16.7.9
受領 子

研-0659

0183

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

配付先

一部	内（政務局庶務渡シ）
一部	興亜院蒙疆連絡部
一部	興亜院華北連絡部青島出張所
一部	〃　天津派遣員事務所
一部	興亜院華中連絡部
一部	〃　南京派遣員事務所
一部	〃　廣東派遣員事務所
一部	興亜院厦門連絡部
三〇部	興亜院政務部
三〇部	多田部隊参謀部第四課
八〇部	計

凡例

一 本調査報告書ハ當部（政務局調査所）ニ於ケル華北工業立地條件調査要綱ニ基キ當該業種ニ關係ヲ有スル在華北主要會社、團体ヲシテ調査セシメタルモノヽ一ナリ

一 前記要綱ニ基ク各調査報告書ノ内容ニ付テハ調査擔當機關ニ於ケル調査要領ノ如何ニ依リ精粗アリ又之カ内容中ノ意見ニ亘ルモノニ付テモ客觀的妥當性ヲ缺クモノナキニシモ非サルモ調査擔當機關ノ調査結果ニ基ク意見トシテ之ヲ尊重シ參考ノ爲一應素材ノ儘之ヲ取纏メ敢テ内容ノ補修訂正ハ行ハサリキ

一 調査擔當者
株式會社武齊洋行　社長　武内進三
〃　工廠長　藤田彌八

一 調査實任者
興亜院華北連絡部政務局調査所　囑託　佐々木三千秋

研-0659
0184
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

目次

「支那事變前ニ於ケル骨粉工業ノ概況

「現況

(一)生産分布狀況

(二)生産ノ方法

(三)販賣狀況

(四)原料取得狀況

(五)勞働力、動力

(六)交通、金融

「骨粉工業ノ立地條件

(一)自然的條件關係

1、氣候

2、地勢、地質

3、河川、湖沼、海洋ノ利用

4、水質

(二)社會的條件關係

1、原料

2、補助材料

3、勞働力

4、生産品關係

5、交通

6、消費市場

7、資本關係

8、租稅

9、保險料

研-0659

0185

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

10、水道料
11、社會的負擔
12、經營技術
13、社會秩序
14、經濟政策
15、國家政策

「日滿華ニ於ケル生産品、原材料ノ需給關係ト立地條件ヨリ觀タル華北工業ノ配分計畫ニ關スル一考察

「支那學藝ニ於ケル骨粉工業ノ概況」

元來華北ニ於ケル骨粉工業ハ現地産ノ廢骨、蹄角ヲ原料トシテ製造加工ノ上、主トシテ對日輸出工業トシテ發展シ來リシモノニシテ之カ製品ハ日本ニトリ絶對的必要ナル肥料ナレトモ華北ニ於ケル地理的環境ノ影響ヲ受ケ天災、治安、内亂外患打續キ各業者ノ波瀾盛衰常ナク、各工廠皆非常ナル經營難ニ陷リ經營者轉々トシテ變リ現今ニ於テ稍見ルヘキハ我カ武齋工廠及ヒ内外化學工業公司アルノミナリ。

「現況

(一)生産ノ分布狀況

		年産	最高能力月産
天津	武齋工廠	一萬噸	二千噸
〃	内外化學工業公司	〃	二千噸
濟南	肥田骨粉工廠	二千噸	三百噸

研-0659
0186
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

青島肥田骨粉工廠	〃	二千噸
〃	〃	三百噸
青濟膠工廠	〃	一千噸
〃	〃	二百噸

(二)生産ノ方法

骨粉工業ハ所謂粗工業ニシテ原料ヲ加壓、乾燥、粉碎ノ三過程ヲ以テ製造スルモノナレトモ之ニ附聯スル膠、ゼラチン、骨炭、石鹸等ヲ製造セントスル場合ハ特種ノ技術及ヒ設備ヲ要スル事ハ勿論ナレトモ本工業ハ原料ノ關係上、中小工業工場ニ適ス。

(三)販賣狀況

元來日本向輸出工業ナレトモ昭和十五年下半期日本ニ於ケル肥料統制ニ依リ殆ト輸出杜絶ノ狀態ニシテ目下僅カニ特殊品「脱膠骨粉」ノ米國向輸出ヲ見ルニ過キス、日本内地ニ於ケル統制價格ヲ改正セハ對日輸出可能ナランモ現狀ニ於テハ現地販賣ニ向フノ他、途ナシ。

(四)原料ノ取得狀況

本工業ノ原料ハ獸骨ナルヲ以テ其ノ産出ニ一定限度アルノミナラス各地ヨリ小量宛、蒐集スルモノナレハ時價ノ變動ニヨリ出廻リ高左右セラレ且製造業者ハ原料取得量ノ多少ハ直接ニ生産高ニ影響スルモノナレハ時ニ業者間ニ不自然ナル競爭ヲ演シ、原料商人ニ漁夫ノ利ヲ占ラルヽニ至ル等アリ。

(五)勞働力、動力

勞働者ハ一時、取得困難ナリシモ現今ニ於テハ多少緩和サレタリ然レトモ物價騰貴ノ爲メ賃銀高ニ依ル生産コスト高トナルハ目下如何トモ爲シ難シ。

動力ハ特殊契約ニ依リ異常ナシ。

(六)交通運輸、金融關係

由來凡ユル工業ハ水陸交通、殊ニ水運ノ要地ニ發達セルコトク、

研-0659

0187

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

本工業モ隆大ナル原料ノ輸送ハ是非トモ水運、即チ華北ニ於ケル民船ヲ利用スルヲ最モ可トスルモ、事變後河川利用ニ依ル出廻リ殆ト杜絶シ現時ハ僅カ水運ニ比シ數倍ノ高額ナル鐵路輸送ニ依ルノミナリ。

尙原料ハ概ネ奥地一帶ヨリ産出スルモノ故工場迄輸送スルニハ相當ノ日月ヲ要シ、爲メニ工場ニハ常ニ莫大ナル原料ストックヲ保持スルヲ要シ殊ニ需要期ハ春秋二季ノタメ其ノ間製品ストックノ關係上多額ノ資金ヲ必要トスル工業ノ一ニシテ操業率ハ全ク金融關係ニ左右サルヽモノト云フヘシ。

一、骨粉工業ノ立地條件

(一)自然的條件關係

1、氣候

骨粉製造工程中特ニ乾燥ハ最モ重要項目ニシテ從來

直接火力乾燥法。。。。石炭、重油ニ依ル法

間接火力乾燥法。。。。蒸氣熱利用ニ依ル法

目然乾燥法。。。。大日ニ依ル法

ノ三方法アルモ肥料ノ如キ比較的低價格ノ品ヲ大量生産センニハ目然乾燥即チ天日乾燥法最モ有利ニシテ元來北支那ノ空氣ハ一般ニ乾燥度非常ニ高ク、特ニ骨粉製造最盛期タル三月四月ノ頃、北支一帶ニ來襲セル蒙古風ノ利用ハ實ニ地ノ利、時ノ利ヲ得タル地理的天惠ノ最タルモノニシテ製鹽業ト共ニ北支ニ於テ骨粉製造業ノ發達シタル一要素ニシテ所謂、雨期即チ七月、八月頃ハ製造中止ニ就キ被害ナク、中南支ニ於テ斯業ノ發達セサリシ所以ハ種々理由アレトモ一般ニ濕氣多ク、目然乾燥不可能ノタメナリ。

2、地勢、地質

研-0659

0188

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

他工業ニ比シ廣大ナル土地ヲ要スルモノニシテ容積大ナル原料及ビ製品ノ置場、平坦ナル乾燥場ヲ必要トスル故、平地ニシテ排水宜敷地及ビ常ニ乾燥セル土質ヲ選ハサルヘカラス。

3、河川、湖沼、海洋ノ利用

原料、運賃ハ既述ノ如ク他ノ重工業ト同様ナレト特ニ骨粉工業ハ驗出工業ナル爲メ外海トノ水運便利ナル地ニ工場ヲ設置セサルヘカラス。

4、水質

ボイラー用ニ適スル水ナレハ可ナレト同一原料ヨリ骨粉以外ノ高級化學品ヲ製造セントスル場合ハ大イニ水質ノ研究ヲ要ス。

(二)社會的條件關係

1、原料

骨粉工業ハ中小規模工業ト雖モ一ケ年ノ所要原料ヲ通算セハ莫大ナル數量ニ達スルモノナレト一定ノ産地無ク且屠殺後副産物タル廢骨ヲ各地ヨリ零細ニ蒐貨シ、貨車ニ積載シ得ル一定量ニ達シテ初メテ出貨スルモノニシテ且利ニ敏キ華人ハ利ヲ追ツテ如何ナル所ヨリニテモ如何ナル危險ヲ冒シテモ搬出スル故他ノ米、棉花等ノ農産物ト全然趣ヲ異ニシ收獲豫想全ク不明ナリ

2、補助材料

包裝用並ニ之カ修繕用諸材料即チ麻袋、麻糸其他ノ品ハ爾來附近市場ヨリ購入セシモ他製品ノ統制強化ノ影響ヲ受ケ次第ニ入手難ニ陥リ今後ハ代用品ノ研究ヲ爲スヲ要ス。

3、勞働力

本工業ノ特質トシテ一部熟練工ヲ除キ大部分ハ筋肉勞働力強

研-0659

0189

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

キモノヲ多量ニ要スルモ北支ハ苦力ノ産地ナル故勞働者ノ募集ハ全ク自由ナリシモ事變後ハ治安關係上從來ノ特契約ノ勞働者ノ出境困難トナリ尚且國策會社、建設事業ノ續出、物價騰貴ノ影響ヲ受ケ、惡質勞働者時ニハ混入シ來リタル爲メニ勞働力低下セシハ遺憾ナリ。

4、生産品關係

骨粉肥料ハ元來輸出品トシテ發達シ來リシモノニシテ從來主トシテ日本向ニ輸出セシモ近時ハ脱膠骨粉ノ製品ハ遠ク大平洋ヲ越エテ米國ノ各地ニ到リ又最近ハ現地ニ於テモ多量ノ需要アリ。普通ノ骨粉ハ麻袋十個ニテ重量約一噸ナリ。

5、交通關係

原料、材料タル廢骨、石炭等凡テ遠隔地ヨリ輸送サレ之カ製品タル骨粉モ亦同樣ニ遠隔地ヘ輸送サルモノニシテ然モ重量、容積共莫大ナルモノ故是非トモ水陸交通ノ要點ヲ占ムルヲ要ス。

6、消費市場

總テ農業地ニ於テ消費サルヽモノナレト農業ノ發達セル土地、農産品ノ價格高キ地方ニ多量ニ消費サルヽモノナリ

7、資本關係

既述セリ

8、租、稅

日本内地ニ比シ負擔輕シ。

9、保險料

危險少キ工業ナル故保險料ハ少シ。

10、水道料

骨粉工業ハ肥料專門ノ場合ハ水ノ使用量僅少ナリ然レト飼料、

研-0659

0190

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

セラチン、膠等ノ製造ニハ多量ノ水ヲ必要トスルモ一般ニハ地下水河水ノ利用ニ依リ大ナル不便ナシ

11、社會的負擔

目下無シ

12、經營技術

原料骨及ヒ骨粉ハ價格常ニ變動アルノミナラス、春秋二季肥料需要期迄大量ストックヲ保有スルモノナレハ原料材料取引上ノ巧拙ハ直接ニ工場經營ニ關係スルヲ以テコノ點ハ長年月ノ熟練ヲ要スルモ、骨粉肥料ノミニ關シテハ特ニ高級精緻ナル化學知識ハ必要缺ク可カラサルモノニハアラス

13、社會秩序

目下勞働運動ノ如キ不安無シ

14、經濟政策

肥料ノ輸出入ニ關税ヲ課スルハ支那ノミナリ之レ大イニ熟考ノ餘地アリ

15、國家政策

農業ト肥料トハ相離ルヘカラサル重大ナル關聯アルモノナレハ農業政策上又食料政策上、國家ハ大イニ肥料工業ヲ保護指導シテ然ルヘキモノト愚考ス

一、日滿華ニ於ケル生産品、原材料ノ需給關係ト、立地條件ヨリ觀タル華北工業ノ配分計畫案ニ關スル一考察

1、抑日常生活需品ノ價格ハ農産物特ニ食料品ノ價格ニ正比例シテ騰落スルモノナレハ食糧品ノ低價格ニシテ且ツ豐富ナル供給ハ目下ノ最大緊急事テアリ是カ爲メニハ不可分ノ關係タル肥料ノ安價潤澤ヲ絶對的ニ必要トスルヲ以テ日滿華ヲ通シテ

研-0659

0191

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

農産物増産計畫樹立ニ際シテハ特ニ肥料工業ニ重點ヲ置カサルヘカラス。

2、骨粉工業ハ元來粗工業ノ特質上製品價格ノ大部分ハ原料材料及ヒ輸送料ニシテ加工賃ノ如キハ其ノ極小一部ニ過キス、工場ノ合理的經營モ亦必要ナルモ原材料ノ價格ハ直接製品價格ヲ決定スルモノナルヲ以テ低廉ナル肥料供給ニハ先ツ原材料價格ヲ合理的ニ抑制セサルヘカラス。

3、原料タル廢骨ノ産出ニハ一定限度アル故各製造業者皆常ニ操短狀態ナレハ今後ハ工場擴張增設ヲ爲ササルコト緊要ナリ。

4、既述ノ如ク骨粉工業ハ常ニ多額ノ資金ヲ要シ然モ他工業ニ比シテ最モ利潤ノ少キモノ故由來工場經營者轉々トシテ移動常ナク既ニ滿洲、青島ノ工場ハ華人ノ手ニ移リ目下頗ル經營難ニ陷リツヽアルモノナレハ時局下食糧政策上適切ナル保護ヲ講スルノ要アリ。

5、骨粉工業ハ肥料專門ノ場合ハ甚タ幼稚ナルモノナレト今後ハ肥料骨粉製造ノ傍ラ向一原料ヲ以テ膠、セラチン、骨炭、油脂、石鹸等ノ製造ヲナシ以テ工場ノ多角經營ヲ爲スニ非サレハ骨工業トシテノ永續性乏シ。

6、骨粉工業ハ原料確保、最モ重要ナル問題ナレハ各製造業者及ヒ原料骨買付商人一致協力シ無暴ナル競爭ヲ避ケ原料買付及ヒ製品ノ販賣ニ關シテモ合理的統制ヲ實施シ以テ安價ナル肥料ヲ豐富ニ供給スル事ハ業者自体モ前途安定ナル經營ヲ爲シ得ル所以ナリ。

7、昭和十五年下半期日本ニ於テ肥料統制實施セラレ日本向輸出全然杜絶セルノミナラス現今ニ於テハ北支産ノ骨粉肥料ハ原料暴騰ノ結果日本向輸出品トシテハ全ク採算不能トナリ依テ

研-0659
0192
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

日本農村ニ於テ最モ要望シツヽアル骨粉ヲ供給シ得サルハ甚タ遺憾ノ極ミナリ然レトモ政府ノ損失保證輸出稅ノ免稅御用運送船ノ利用其他種々ノ政策ニヨリ一日モ早ク日本内地向ケ骨粉肥料ヲ輸出シ以テ圓滑ナル配給ヲ圖スルハ是レ農業新体制ニ沿ヒ得ル捷路ナリ。

骨粉工業ハ漸次輸出工業ヨリ現地向工業ニ轉向シツヽアルモ現今尙幾多ノ事業的危險性アリ然レトモ時局下日滿支農産物增産計畫ニ適應シテ農村ノ爲メニ低廉ナル肥料供給ノ絶對的必要タルハ論ヲ俟タス元來認識淺キ中國農民ニ對シ肥料宣傳ハ實ニ困難タルコトナレトモ既ニ施肥ノ体驗ヲ經タル油脂肥料及ヒ輸入化學肥料ノ配合ニ依リ最低價格ニシテ且現地土壤ニ最適ナル配合肥料ヲ豐富ニ提供シ以テ戰時下最大ノ國策タル食糧增産計畫遂行ニ協力セサルヘカラス

天津港輸出獸骨數量

年別 / 月別	昭和十二年		昭和十三年		昭和十四年		昭和十五年	
	數量（百瓩）	金額（元）	數量（百瓩）	金額（元）	數量（百瓩）	金額（元）	數量（百瓩）	金額（元）
一月	一、六六六	四、二八〇	二〇三	七一一				
二月	一、九三八	六、一二九						
三月			二〇三					
四月	四三六	一、二三三	三〇六	一、四三三				
五月	七九二	二、七七三						
六月	四〇四	一、六四四	九	九〇				
七月	二〇三	一〇六						
八月								
九月								
一〇月								
一一月								
一二月	二〇三	七一一						
總計	五、八一四	一、九三〇六	八二一	二、五三四				

研-0659

0193

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

天竜川流域砂防出張

月別 ＼ 年別	昭和十二年		昭和十四年		昭和十五年		昭和十六年	
	数量(百貫)	価額(円)	数量(百貫)	価額(円)	数量(百貫)	価額(円)	数量(百貫)	価額(円)
一月	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
二月	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
三月	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
四月	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
五月	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
六月	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
七月	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
八月			[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
九月	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]			[illegible]	[illegible]
一〇月	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]		
一一月	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]		
一二月	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]		
総計	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/
研-0659
D1-D4

E

244

自 昭和十五年 月 日
至 年 月 日

畜産関係雑件

羊ノ部

華北蒙疆緬羊改良増殖対策関係

第 巻

門 E
類 4
項 3
目 2
号 8-2-1

自 昭和十五年 月 日
至 年 月 日

畜産関係雑件

羊ノ部

華北蒙疆緬羊改良増殖対策関係

第 巻

研-0659

0195

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/